

第 28 回武蔵野市ジュニア交流団報告書 (抜粋版)

～ 目次 ～

○ ラボック市の概要・交流実績	2
○ テキサス州の歴史	3
○ 派遣日程	4
○ 事前研修の日程	6
○ 派遣研修のアルバム	7
○ ホームステイの思い出	1 2
○ 感想文・研修テーマ調査発表	2 9
○ 団員アンケート集計	6 3

※ホームページでの公開にあたり、団員の個人情報に配慮し、氏名を伏せる等の加工を行っています。

ラボック市の概要・交流実績

～概要～

ラボック市	
位置	アメリカ合衆国テキサス州の北西部
面積	350 k m ²
人口	263,000 人
気候	年間平均気温 16.4℃ 年間を通じて晴天が多く、乾燥して爽やかな気候
歴史	1870 年代後半 入植開始
	1909 年 鉄道開通、市制施行
	1923 年 テキサス・テック大学創設
	1940 年代 空軍基地が開設され、経済成長を遂げる
	1970 年代 激しい竜巻に襲われるが、スムーズに再建される
	1995 年 空軍基地撤退
	2005 年 全米で保守的な町・第 2 位にランクイン、ハリケーンによる避難者を受け入れる
	2009 年 ラボック市市制 100 周年を迎える
	2016 年 アメリカ地質調査所は、ラボックからミッドランドに広がるシェール油田が、アメリカ国内最大規模であると発表。
産業	綿花、小麦、トウモロコシ、石油産業、ハイテク産業
交通	米 3 大航空会社乗り入れ（ラボック空港）、鉄道 2 社運行、縦横に高速道路が走る

～交流実績～

1986（昭和 61）年	7 月	第 1 回ジュニア大使親善使節団派遣（以後、2008 年まで毎年、本年 28 回目）
1988（昭和 63）年	4 月	土屋市長ラボック市他テキサス州各都市を訪問
	12 月	マクミン前ラボック市長、テキサス・テック大学関係者来訪
1990（平成 2）年	7 月	第 1 回ラボック市ジュニア大使一行来訪
	10 月	井口一男議長、坂本章子副議長ラボック市を訪問
		武蔵野市開村 100 周年を記念してテキサス・テック大学からバラ 10 品種 100 株の寄贈を受ける
1992（平成 4）年	7 月	第 2 回ラボック市ジュニア大使一行来訪
1995（平成 7）年	6 月	第 3 回ラボック市ジュニア大使一行来訪（以後 2008 年まで毎年、昨年 21 回目）
1996（平成 8）年	10 月	常田幸次議長、寺山光一郎議員ラボック市を訪問
2001（平成 13）年	6 月	「武蔵野市・ラボック市ジュニア交流団協定書」締結
	8 月	井口良美議長、小川将二郎副議長等議員団 7 名ラボック市を訪問
2002（平成 14）年	6 月	ラボック市から第 10 回ラボック市ジュニア大使を記念して「武蔵野市・ラボック市友好の風車」の寄贈を受ける
2005（平成 17）年	6 月	ラボック市から交流 20 周年を記念して、モニュメントの寄贈を受ける
	8 月	ジュニア交流団 20 回記念パネル展開催
2006（平成 18）年	2 月	ジュニア交流団 20 回記念市民団派遣
2009（平成 21）年	3 月	ラボック市市制 100 周年を記念して記念品を寄贈
2010（平成 22）年	6 月	交流 25 周年を記念してモニュメントの寄贈を受ける
2011（平成 23）年	7 月	交流 25 周年を記念して記念品を寄贈
2016（平成 28）年	6 月	交流 30 周年を記念して記念品の交換と記念式典を行う

★ テキサス州の歴史 ★

1492年コロンブスによる歴史的に有名なアメリカ大陸の発見当時、既にテキサスにはいくつかのネイティブアメリカンの種族が住んでいたと言われています。ネイティブアメリカンのTeyshas（友人）と仲間内を呼び合う言葉がTexasという現在の州名へと転じました。

1519年からスペイン（1685～1690年の間はフランス領）の支配下に入り、1821年メキシコのスペインからの独立と同時にメキシコ領となりました。その後、Stephan F. Austinによる入植と共に白人人口が増加し（1836年 52,000人）、それに伴い言語や文化的な対立がメキシコ側とテキサス入植者との間に顕著になってきました。1836年サンアントニオにおいて対立は究極化し、有名な「アラモの砦」を舞台として戦闘が繰り広げられるに至りました。英雄デビー・クロケット率いるテキサス側自衛軍（入植者）187人は約5,000人ものサンタアナ大統領自ら率いるメキシコ軍に囲まれ、13日間続いた戦いの後、降伏することもなく全員壮絶な死を迎えました。

アラモ陥落後、「Remember the Alamo」を合言葉にテキサスは共和国としての独立宣言のもとに結束し、サンジャシントにてメキシコ軍を大破し、テキサス共和国が誕生しました。初代大統領としてサム・ヒューストン大統領が就任しました。

1845年12月29日には28番目の州として、連邦に併合しました。1861年～65年には南軍として南北戦争に参戦しましたが敗北を味わいました。1901年にはスピンドルトップで石油が大噴出し、その豊富な資源により潤いましたが、1980年代のオイルショックにより経済的打撃を受けました。現在は宇宙開発計画を軸とするハイテク産業の中心地としての活気を再び取り戻しつつあります。

よく言われる州の独自性の強さは上記のような歴史的背景に通じており、テキサス州の州旗「ローン・スター」は州の別称として人々に愛されています。



派遣日程

7/23 (火)	6:15	出発式	午前6時に北玄関集合
	6:30	武蔵野市役所をバスで出発	
	8:30	成田空港着	
	10:50	成田発	AA176 アメリカン航空
		……日付変更線通過……	
	8:55	ダラス着、入国手続き、出発ゲートへ	
	12:39	ダラス発	AA2864 アメリカン航空
	13:45	ラボック着	
	14:30	空港からホテルへ出発	
	14:45	ホテル着 (チェックイン)	
	16:00	市役所へ出発	
	16:30	市役所・議会 表敬訪問	
	17:30	夕食	オランドズ (Orlando's)
	19:00	ホテルへ出発	
19:30	ホテル着	【ホテル】 Overton ホテル泊	
7/24 (水)		朝食	
	8:50	ロビー集合	
	9:00	ホテル発 (アランヘンリー湖へ)	日焼け止め、水着、サンダル持参
	10:30	アランヘンリー湖着、水遊び	
	12:00	昼食	BBQ (ハンバーガー、ホットドッグ等)
	13:00	アランヘンリー湖で水遊び	
	16:30	アランヘンリー湖発 (ラボックへ戻る)	
	18:00	夕食	Texas Roadhouse
	19:30	ホテル着	【ホテル】 Overton ホテル
7/25 (木)		朝食	
	8:35	ロビー集合	
	8:45	ホテル発 (市民会館へ)	
	9:00	市民会館で出し物練習	
	10:00	警察学校へ出発	
	10:30	警察学校デモンストレーション	
	11:30	警察学校発 (昼食場所へ)	
	12:00	昼食	The Plaza
	14:00	イーガート牧場訪問 (乗馬・水滑り台など)	
		夕食	野外で BBQ、キャンプファイヤー
	19:00	イーガート牧場発 (ホテルへ)	
	19:30	ホテル着	【ホテル】 Overton ホテル

7/26 (金)		朝食	チェックアウトし、スーツケースを預ける。
	10:00	ロビー集合	
	10:15	風力博物館へ出発	1 時間半のガイドツアー
	10:30	風力博物館を見学	
	12:00	MAIN EVENT へ出発	ボウリング・アミューズメント施設
	12:30	昼食・ボウリング・各種ゲームなど	
	16:30	ホテルへ出発	
	17:15	ロビーに集合	
	17:30	ホストファミリー対面式	Overton Hotel
		ホームステイ開始	
7/27 (土)	終日	ホームステイ	
7/28 (日)		ホームステイ	
	16:30	ホストファミリー宅からホテルに戻る	
	17:40	さよならパーティーへ出発	
	18:00	さよならパーティー	市民会館 Civic Center
		団員による出し物発表	
	19:30	ホテル着	【ホテル】 Overton ホテル
7/29 (月)	7:30	ロビー集合	
	8:00	ホテルをチェックアウトして出発	
		空港にて搭乗手続き	
	10:24	ラボック発	AA5780S アメリカン航空
		空路	
	11:40	ダラス着	
		出発ゲートへ	
	13:40	ダラス発	AA61 アメリカン航空
		……日付変更線通過……	
7/30 (火)	16:45	成田着	
	17:45	成田空港を出て武蔵野市役所へ	
	19:40	武蔵野市役所到着後、帰国式、解散	

事前研修の日程

	日時・場所	内容
合同 結団式	6月16日(日) 10:00～10:30 811 会議室	①市長あいさつ ②交流団紹介(団員・団長・引率者紹介) ③団長あいさつ ④交流事業課担当者紹介 ⑤記念撮影
第1回 事前研修	6月16日(日) 10:40～13:00 813 会議室	①旅行手続き説明【日通旅行】 ②派遣団参加にあたって(派遣日程説明、今後の注意事項等) ③ホームステイシートについて ④服装の説明 ⑤定時・緊急連絡先調査表 ⑥ポロシャツサイズ確認 ⑦ジュニア交流団自己紹介 ⑧提出物の確認 ⑨出し物決定
第2回 事前研修	6月24日(月) 18:00～20:30 西棟 811 会議室	①提出物の確認 ②団員としての心構え ③健康管理等について ④研修テーマ調査表について ⑤英語・文化講座 ⑥出し物指導・練習 ⑦連絡事項(次回提出物)
第3回 事前研修	7月5日(金) 18:00～20:30 西棟 412 会議室	①提出物の確認 ②持ち物について(チェックリスト) ③ホストファミリーへのお土産について ④団員の役割決定(挨拶担当等) ⑤ホームステイ・ホテル部屋割ペアの決定 ⑥報告書の作成や報告会について ⑦英語・文化講座 ⑧出し物練習 ⑨前回団員の体験談報告
第4回 事前研修	7月16日(火) 18:00～20:30 西棟 811 会議室	①報告書用個人写真撮影 ②前回団長・団員の体験談報告 ③提出物の確認 ④団員グループ決定について ⑤ホストファミリーシートの配布 ⑥挨拶練習 ⑦英語・文化講座 ⑧出し物練習 ⑨しおりの配布
事後研修	8月20日(火) 14:00～16:30 西棟 111 会議室	①グループワーク ②報告会に向けて ③派遣の振り返り ④アンケート配布

派遣研修のアルバム

※一日ごとに団員が分担して執筆

1日目 7月23日(火)

7月23日朝6時、ついに市役所での出発式を迎えました。家族と離れてアメリカへ行くことへの不安もありましたが、それ以上にわくわくした気持ちでした。

市長、団長、そして団員の挨拶を終え、空港へ向かうバスに乗りました。見送りに来てくださった皆さんの、「行ってらっしゃい」という言葉とともに市役所をあとにしました。

そして成田空港に到着。ここからは出国に向けての手続きです。普段は親に頼っていたことも、すべて1人で済ませなければなりません。パスポートなども常に自分で管理し、ついに飛行機の搭乗時間がやってきました。私たちのアメリカでの8日間が、ついに始まります。

12時間の空の旅。映画を観たり、ゲームをしたり、皆それぞれ思い思いの時間を過ごしました。機内食は、チキンやハンバーガーなどがあり、すでにアメリカにいるような感覚でした。しかし、フライトが長いため、足が疲れたり眠りにくいこともありました。楽しい時間はあっという間に過ぎていき、いよいよダラス空港に着きました。

もう私たちがいるのは、日本語の通じるわけではありません。空港の案内板、ショップの表示、すべてが英語で書かれていて、本当にアメリカまで来たんだ、という実感が湧いてきました。入国審査の時にも、ちゃんと英語で会話が交わせるのか心配でしたが、うまく答えることができました。ダラス空港では、ラボックへの乗り継ぎ前に通訳のユカさんと合流しました。軽い挨拶を交わし、今度はラボック国際空港に向かいます。約2時間のフライトでしたが、時差などの疲れもあり、ほとんど寝て過ごしました。目が覚めた時には、もうテキサス州ラボック市。気温は35度と聞いていたので、暑いのかなと思いきや、湿度が低いのでとてもカラッとしていました。

空港からホテルまでは、ラボック市の市営バスに乗って行きました。そのバスには「SPECIAL」という文字があり、改めてラボック市の皆さんのお心遣いに感謝しました。ホテルに着いてからも驚きの連続でした。ロビーで、市議会の方から、名誉市民証を頂きました。それだけでもありがたいことなのですが、さらに1人1人へのお土産もありました。ラボック市の皆さんが私たちを温かく歓迎してくださり、とても嬉しかったです。

ホテルでつかの間の休憩をとった後、私たちは市議会の表敬訪問に行きました。市役所に着くと、職員の方が拍手で出迎えて下さいました。市長をはじめ、議員の方々が続々とホールの中に入ってきます。ラボック市の議会がどんな風に行われているのか、間近で見て学ぶことができました。また、その途中で私たち武蔵野市の団員の紹介もあり、誇らしい気持ちになりました。

そして、1日目の最後はオランドズというレストランでの夕食です。運ばれてきたお水のコップと、料理のサイズに驚きました。パスタを食べたり、スープを飲んだりして、疲れが少しとれたような気がしました。



苦労と感動の連続だった1日目。これから始まる8日間に、新たな期待をふくらませました。

2日目 7月24日(水)

2日目のアランヘンリー湖は私の楽しみにしているプログラムのひとつでした。ホテルの集合場所に行く
とラボック市の職員の方々とラボック独立学校区の方が待っていて、団員全員に可愛い柄のバスタオルと青
いタンブラーをプレゼントしてくださりました。

ラボックの市営バスではなく、今回は独立学校区の移動用バスに乗って行きました。行きのバスではプレ
ゼントのタオルの柄をみんなで見せ合ったり、初めて生で見るアメリカの郊外の景色に驚きながら、小一時
間であつという間にアランヘンリー湖付近のコテージに着きました。そこから着替え、数人に別れて、とあ
るホストファミリーの家の車に乗り、アランヘンリー湖に行きました。コテージからアランヘンリー湖まで
は危ないので車で移動します。

アランヘンリー湖では女子対男子に別れて足漕ぎボートの上や、浮き輪の上で、水鉄砲で水の掛け合いを
しました。途中から現地の子供たちも数人混じって楽しく遊べました。(湖はとても深いのでリバーシューズ
やサングラス、携帯など落とさないように！)

午前中もあつという間に終わり、昼食の時間になりました。ラボックでの初めての昼食だったのでこれも
また楽しみにしていました。昼食のBBQはパンや、お肉、ソーセージとお菓子がならんでおり、自分達で焼
いて食べるというよりはビュッフェスタイルでした。私たちが遊んでいる間に準備をしてくれたようで嬉
しかったです。食後はアメリカらしい味の濃いポテトチップスや、真っ赤なクリームが付いたクッキーを食
べながらシャボン玉で遊んでいました。慣れない食べ物もありましたが、みんなで挑戦するのもまた楽しく、
美味しくいただきました。

午後は警察のボートに乗り、沖で泳ぎました。ライフジャケ
ットを着ているので溺れる心配はありません。次に、後ろにゴ
ムボートの付いた船に乗り換えました。船はゴムボートを猛ス
ピードで引っ張り、私達は落ちないように気をつけながら楽し
みました。5人で乗ったので重心がよく変わり、とてもスリリ
ングでした。



ボートで岸边へ帰り、今度は現地のダニエル君と遊びまし
た。舟橋からお互い落とし合ったり、水の掛け合いなどしまし
た。終始楽しく遊んでいると、すぐ帰る時間になりました。ラボックに着いてからの最初のビッグイベント
は団員との距離も一気に縮まり、思い出に残る一日となりました。みんな元気いっぱい遊んでいたの
で、ほとんどの人が帰りのバスで疲れて眠ってしまいました。

夕食はテキサスロードハウスでテキサスステーキを食べました。A1ソースというウスターソースのよ
うなものをかけて食べました。お肉もサイドメニューも全てビッグサイズで食べきれませんでした
が、お肉がジューシーで食べやすかったです。

3日目 7月25日(木)

この日の朝食もホテルのバイキングで、大好きなベーコンを食べてジュニア交流団の、1日が始まりました。
初めにさよならパーティーで行う出し物の練習をするために、ラボック市が用意したバスに乗り、市民
会館に向かいました。今日もバスの中は、話し声で賑わっていました。市民会館に入ると本番で使用するホ
ールに入り、まずは個人の出し物の練習を行ないました。最後には、全員みんなの前でリハーサルを行ない
ましたが、本番に向けて全員が課題を見つけられたように感じました。全員の出し物の歌は、まだ声が小さ
く改善すべき所があったように感じましたが、ソーラン節はほぼ完璧な演技ができた実感しました。

その後、警察学校へ行き、学校内の見学やデモンストレーション、各種部隊からの説明を聞きました。

実際に道具などを触らせてくれたため、体を使って体験ができ、言語が違って説明が分かりやすかったです。特に印象に残っているのは、ラボックのある一部の地区を、馬でパトロールしているということです。馬は誰よりも速く走り、時には犯人を現行犯逮捕することもあると、教えてくれました。また、警察官は日本の警官よりも大きな拳銃を装備しており、銃社会のアメリカを実感しました。他に、SWATの見学は実際のライフルなどを触らせてくれたため、とても人気がありました。三つの部隊の説明を受けた後、バスで昼食のメキシカン料理を食べに向かいました。注文した料理が出てくるまでは、交流団の仲間とナチョスを食べながら会話をして過ごしました。昼食はタコスなど、自分達の好きなものを頼んで食べました。全員の腹がタコスでふくれた後、次はイーガート牧場に向かいました。バスが、イーガート牧場に近づくと、窓の外をカウボーイ風のクールなおじさんが、馬に乗ってバスを先導してくれました。イーガート牧場に着いた時には、カウボーイの歓迎を受けて皆がみんな興奮していました。バスから降りた後の歓迎も素晴らしく、自分たちが着いた途端に、笑顔で首に赤いスカーフを着けて出迎えてくれました。そのような場面からもアメリカ人のフレンドリーなところがよく分かりました。温かい歓迎を受けた後、テキサスレンジャーと馬に乗って記念撮影をしました。馬に触ることすら身近ではできないのに、馬に乗るという貴重な体験ができました。



その後、団員全員とイーガートさんの自宅プールに入り、2チームに分かれて水上バレーボールをしました。バレーボール部に所属している団員が2名いたため、驚くようなプレーが炸裂し、今日一番盛り上がりました。水上バレーボールが30分ほど続くと、テキサスレンジャーについて、テキサスレンジャーの方とユカさんから説明が行われました。ユカさんとテキサスレンジャーの方からの説明が終わると、自由時間が待っていました。このままプールで遊んでもよし、ウォータースライダーや釣り、乗馬を楽しんでもよし、かき氷は無料で食べ放題…夢の環境でした。私は、まず先ほど写真を撮った馬に乗って、牧場内を散歩しました。馬はとてもおとなしく、気持ち良かったです。その後、釣りをしたりウォータースライダーを現地の子供、そしてイーガート牧場の皆さんと遊んで、親交を深めました。また、記念撮影の写真を飾る写真たての作成、キックベースをしました。キックベースは、アメリカ人の豪快なパワーに驚かされるような場面がありました。キックベースが終わると、BBQが待っていました。ハンバーグやホットドッグを、ホームステイのファミリーと共に食べました。言葉の意味は分からないけれど、会話は弾みました。その後、イーガート牧場の皆さんと別れ、ホテルへ戻りました。ホテルへ着くと一日中外で過ごしたからか、みんなクタクタでした。この日は大変疲れるスケジュールでしたが、無事一日を終えることができました。



4日目 7月26日(金)

4日目は、最初に風力博物館の見学をしました。そこは世界一大きな風力博物館で、1860年代～現在までの200種類以上の風車を展示しています。風力博物館はとても広く、ラボックで作られた、風車や、初期の風車など様々な風車があり驚きました。その他に私が驚いたのは、1940年代のラボックの町を再現したミニチュア模型です。実際に列車の時間も決まっており、一定の時間にそれぞれの列車が動いていました。とてもリアルに再現されていてみんなスマホやカメラを構えて写真を撮っていました。時間があつたので、見学後、お土産を買うことができました。



私はそこでポストカードを買い、帰国後、祖母二人にメッセージを添えて送りました。最後に、外にある大きな風車の中に入りました。上はとても高くそこでもみんな大変驚いていました。

昼食後はバスでMAIN EVENTというアミューズメント施設へ行きました。そこはクレーンゲームやボウリング、ビリヤードなどが楽しめる施設です。武蔵野市代表なのにこんなに遊んでいいのかと思うほど思いきり遊び、とても楽しかったです。ゲームコーナーでは、シューティングゲームでかなり盛り上がっていました。私は、VRのジェットコースターとボウリングが楽しかったです。VRは今まで体験したことがなく少し酔ってしまいましたが、初めての新鮮な体験でした。また、ボウリングは、女子 vs.男子で競いました。

たくさん遊んでいよいよホームステイの始まりです。ホームステイ対面式では、お菓子やジュースを飲みながらホストファミリーと楽しく会話をすることができました。同時に、今まで一緒に過ごした団員との別れも悲しく感じました。ホームステイについて、私はとても緊張していました。しかし、ホストファミリーが優しく話かけてくれ、安心することができました。刺激的で、とても楽しい1日となりました。



5日目 7月27日(土) 終日ホームステイ

6日目 7月28日(日)

この日はホストファミリーと過ごす最後の日でした。ショッピングをしたり、ジョイランド(遊園地)で楽しんだりしていると、あっという間に夕方になってしまいました。車でホテルに戻り、みんなと合流してそれぞれ何をしたかななどの話に花を咲かせました。



その後、服を着替え市民会館に行くと、食事の用意ができていました。ホストファミリーに会うと、もう今日が最後の日だという実感がわいてきて、少し寂しい気持ちになりました。皆が集まり席についたところでパーティーがスタートし、夕食を食べました。サラダや、チキン、ケーキなど美味しそうなメニューがテーブルに並んでいましたが、寂しい気分のせいか、僕はあまり食べるできませんでした。パーティーの途中で、それぞれの家で何をしたのかを発表する時間があり、どの家でも楽しく過ごせたのかなと感じました。そこで気づいたのですが、ホストファミリーとして僕たちを受け入れてくれた家の子供の多くが、以前に武蔵野市に来ているということを知りました。そのことにとっても驚いたと同時に、お互いの子供達が良い関係を築けていると感じました。



時間はあっという間に過ぎるもので、気が付けば自分達の発表でした。少しハプニングはあったものの、ダンスやけん玉、僕達のマジックは成功し、会場を良い雰囲気にすることができました。日本で一生懸命練習したので、その成果を出すことができましたと思います。

最後に全員の発表を行いました。「A Whole New World」は、恥ずかしがらずに皆で声を出して歌いきることができました。ダンスの「ソーラン節」は、最も頑張って練習した出し物なので、息ぴったりに踊りることができて、成功して嬉しかったです。日本独特の踊りなので、会場の方々は珍しそうに見ていました。

そして、ついにお別れの時間がやってきてしまいました。記念撮影をしたり、話をしたりしました。悲しさで泣き出してしまいうもいました。最後に、握手をして別れました。

その日の夜は、それぞれの部屋でゆっくり過ごしました。皆はわりと遅くまで起きていたようですが、僕は疲れていたのでも12時頃に寝ました。



7・8日目 7月29日30日(月・火)

とうとう日本に帰る日になりました。起床は6時。ホテルのモーニングコールをユカさんに設定してもらいました。すごく大きな音だったのに、目覚めない人がちらほら。食事をとって部屋に戻り、スーツケースを持ってロビーへ。待ち時間には「夏休みの宿題が終わらなさそう。」「日本に帰りたくない。」という声がたくさん聞こえてきました。

バスはラボックの空港につきスーツケースを受け取りました。「Thank you!」現地で自分が言う最後の英語でした。手荷物を預けるときふと周りを見ると、23kgを超えてしまいスーツケースを開ける人や、手荷物をX線検査にかけるときに呼ばれて荷物を漁られ飲み物が出てくる人が結構いました。そんなことは全く気にしないかのように、AA5780S便は定刻でラボック市を後にしました。

約1時間30分後ダラス空港に着きました。「Skylink」に乗って国際線ターミナルに行きました。しばらくの間、自由時間があり、そこで「STARBUCKS COFFEE」のマグカップを買う人や、ガムやチョコを買う人、さらには野球ボールを買う人までいました。

そして、この一週間お世話になったユカさんにお別れを告げるときが来ました。そこで初めて楽しい時間があっという間に過ぎてしまったことを感じました。「別れたくない!」と強く思いましたが、無情にも出発の時が来てしまいました。みんなユカさんへの感謝の気持ちでいっぱいでした。

飛行機に乗り込むと同時に「ああ、楽しかったアメリカ生活がもう終わってしまうのか。頼むからこのまま滑走路から飛び立たないでくれ!」と思いましたが、僕のそんな気持ちを無視して、飛行機はアメリカの大地から車輪を離しました。機内では、映画を見る人、ゲームをする人、寝る人、喋る人、様々いましたが、みんな心の中では「またラボックに来るぞ!」という気持ちでいっぱいだったと思います。そのように考えないと寂しかったからです。約12時間、機内で思い思いの過ごし方をして、ベルトサインがついたり消えたりする中、ついに房総半島が見えてきました。そこで改めて「日本って小さい…」と思いました。今まで日本で生活しているときにはそんな風には思わなかったのに、アメリカに行った貴重な体験でそのように感じる事ができた自分に驚きました。

そして飛行機は無事成田空港の滑走路に着陸し、日本の蒸し暑さを感じる機外に出ました。ラボックは乾燥した土地だったので、日本の湿度の高い暑さが本当に辛かったです。

市役所に着き、バスを降りるとすでに両親が待っていました。帰国式を終え、みんなと思い出を振り返りながら「また遊ぼうな!」と言い、各家へと帰っていきました。

その後、家につき、日本食を食べたら、アメリカの食事でやや疲れていた内臓がホッとするのを感じました。スーツケースを開けると家族のために買ってきたお菓子やお土産がスーツケースの中であちこちに散らばっていてビックリしましたが、とても疲れていたので荷解きはせずに早く寝ました。

今回のラボックでの体験は中学2年生の僕にとって、かけがえのないものになりました。普通に日本で暮らしていたら想像することもできない広い世界を実際に体験させていただき、インターネットなどで海外のことを知った気になっていた自分を、今では恥ずかしく思うくらいです。

僕たちをラボックに連れて行くため、また、迎えるために尽力していただいたみなさんに深く感謝したいと思います。この旅と一緒に経験したみんなも一生大切にしたい友達です。

本当にありがとうございました!



ホームステイの思い出

中2・男子 & 中2・男子 Reyes Family

今回の研修で一番心に残ったのは、ホームステイです。僕たちはレイエスファミリーにお世話になりました。レイエスファミリーは8人と3匹の大所帯ファミリーでした。

お父さんのサニーさん（郵便局員）とお母さんのシルビアさん（ラボック市職員）、長男テキサステック大学生のマウリシオ（19歳）、二男ジュアン（16歳）、三男ウィリアム（5歳）、長女ジュリア（14歳）、二女キャロライナ（11歳）、三女イザベラ（8歳）と犬2匹と猫1匹でアメリカでも珍しい大家族です。



サニーさんは、料理が上手で、僕達を車で色々な場所へ連れて行ってくれる頼れるお父さんでした。シルビアさんはいつも笑っていて、写真が好きで僕たちの写真を撮影してくれました。メキシコ料理も得意です。マウリシオは長男なので、下の兄弟を見ながら、僕たちにも常に気にかけてくれとても頼もしかったです。ジュアンは気さくで話しやすい男の子でイケメンでした。ジュリアは理科が好きで将来科学者を目指しているそうで、僕たちに理科のビデオを見せて色々と説明してくれました。キャロライナは運動が大好きで活発な女の子でした。

イザベラは動物が好きでペットの話をよくしてくれました。ウィリアムは末っ子だからか、色々話しながら甘えてくれてとても可愛かったです。

ホームステイ 1日目

団長と別れて、ホテルを出ると、大きなバンでお父さんが僕達を迎えに来てくれました。そのバンに乗り、サンプリングモール（ショッピングモール）へ行きました。そこでは、夜ご飯でパスタを食べました。食べ終わると、僕たちが欲しかった、テキサステックの帽子とTシャツを買いに行きました。テキサステックのロゴが全面に刺繍してあり、赤と黒を選びました。その後家に帰宅し、家族で「トイストーリー4」をTVで見ました。まだ日本公開前だったので、楽しみでしたが、字幕無しでの鑑賞だったので、アニメの動きを見て話を予想しながら見ました。日本に帰国後改めてストーリーを見直したいと思います。その日は疲れて22時半に就寝しました。

ホームステイ 2 日目

8時半に起床し、お母さんがパンケーキを作ってくれました。その後公園に行くことになり、途中お父さんが勤務している郵便局へ立ち寄りしました。局内を案内してくれました。施設はとても広く、日本の郵便局とは規模が違い、仕分けをするエリアが大きかったです。その後公園に到着すると、僕がテニス部という事を覚えてくれていたからか、みんなでテニスをし、キャッチボールもしました。大きな公園でのんびり過ごし、天気も快晴で清々しい気持ちになりました。

その後 Dairy Queen というハンバーガー屋さんへ行きました。そこでハンバーガーセットとアイスを食べました。ハンバーガーは日本と違い、チーズ味が濃く



美味しかったです。16時半頃から家族で教会へ行きました。僕のTシャツが柄物だったので、お母さんが着替えた方がいいよと無地のポロシャツをプレゼントしてくれて、着替えて教会に行きました。教会では、子供連れ後方のスペースで、聖歌や神父さんのお話を聞きました。すると神父さんから僕達の紹介があり、多くの方々から拍手を受けました。神聖な気持ちになりました。夕方からスーパーへ移動し、日本の家族へとナッツやチョコを沢山購入してくれました。夕飯ではスーパーで購入したお寿司と、僕たちが持参したみそ汁と一緒に食べました。お寿司は美味しかったです。日本と違いネタが大きくびっくりしました。



夕飯後は日本から僕達が持参したプレゼントをホストファミリーへ渡しました。やはり日本の抹茶チョコレートやうまい棒が人気でした。その他万華鏡や歌舞伎座とコラボしたスヌーピークリアファイルを姉妹が喜んでくれました。お返しに家族のみんなが、サプライズで「アメリカへようこそ」と書いたメッセージケーキを出してくれました。僕達は、はにかみながら記念写真を撮りました。

ホームステイ 3 日目

8時ぐらいに起床し、トルティーヤを食べました。その時お母さんと Buddy Holly の話になり、僕の好きな歌手の話が聞かれ Charlie Puth の「One Call Away」と答えたところ、お母さんが喜んでくれて、歌詞に出てくるスーパーマンのエピソードからスーパーマンロゴTシャツをプレゼントしてくれました。僕は英語でコミュニケーションが取れた事に感激しました。

その後フリーマーケットへ行きました。そこで沢山のお土産を買いました。友達に国旗や動物のマグネットなど購入しました。その後 Joy Land(遊園地)へ行きました。絶叫マシンが多く、お父さんとジェットコースターに乗りました。

レイエスファミリーのおかげで、この3日間は僕にとってかけがえのない時間となりました。これも僕らを家族の一員のように温かく迎え入れてくださったホストファミリーに感謝し、またいつの日か会いに行きたいと思います。

中1・男子 & 中2・男子 Lucero Family

ホームステイ 1 日目

対面式で僕の家族となってくれる人はどんな方なのだろう？ととてもドキドキしていた。対面式の直前である事情でホストファミリー先が変わり、緊張していたが、Lucero さん一家の笑顔で不安が消えた。もともと行く予定だった Cribbs さん一家の皆さんにも会えた。団員とホストファミリーの皆さん全員で挨拶して Lucero さんの車に乗り込んだ。その後すぐには家に帰らず、ショッピングモールに行った。とても大きいモールだった。日本で大きい建物といえば、縦に高いビルだが、そのショッピングモールは2階建てで横に長い形をしていた。中に入ってみると、真ん中の道が2車線、車が通れそうな幅であった。それなのにひとつひとつのお店は大きくなく、アンバランスさが不思議だった。モールの中で少しポテトを食べた。これがアメリカのポテトか、と感動していた。日本と味は同じだが、素材のジャガイモがいいのか格別なおいしさであった。2組のホストファミリーに偶然会った。帰ることになり、車に乗って20分ほどで家に着いた。車の中でせっかくのホストファミリーと話したいと思っていたが、疲れが出て話せなかった。家に着くと2匹の犬が飛びつくように歓迎してくれた。アメリカでは日没が21時ぐらいで、19時なのに、まだ16時のようなテンションでJohn お兄さんとラグビーやサッカー、バレーボールなどで楽しんだ。この日はとても疲れていたもので、21時には就寝。本当はもっと起きていて、ホストファミリーと話したりしたかったが…。



ホームステイ 2 日目



起床したのは朝7時。朝リビングへ行ったが誰も起きていなかった。アメリカと日本では時間の感覚が違うのかと思った。ヨーグルトなどを食べて、ロックンロールのパイオニア的存在 Buddy Holly の銅像、メガネのオブジェを見に行った。その近くにある市場に行こうというので、ついていったら、テントの下にお店、それがたくさん並んでいた。花屋さん、八百屋さん…、テキサス州の形をした木の飾り物もお土産用として売っていた。見ているだけで楽しめた。お母さんにはちみつのボトルを買ってもらった。値段の安さに驚いたが、産地からの直送で新鮮なものが手に入りやすいのはうらやましいと感じた。この後、スーパーに行き、ランチを食べた。CAR WASH(洗車場)に行くというので初めての体験でどんなものだろうと思っていたら、僕たちは乗車したまま大きなブラシのあるトンネルに吸い込まれた。容赦ない水流が車にたたきつけ、ブラシがクルクルと車を洗っていく。機械に「製造国、日本」とあった。日本から遠く離れた街の片隅に日本の国名があるとは、と驚いた。恐竜博物館など回り非常に充実していた。16時、家から少し離れた公園でビーチバレー用のコートがあり、そこでバレーボールを楽しんだ。そこでほかの団員とホストファミリーの皆さんにも会い、バレーボールしたり話したりしていた。

帰宅した後は、僕の趣味である将棋のやり方を、John お兄さんに教えたが、「とても面白いボードゲーム」と喜んでくれた。

ホームステイ 3 日目

朝食後、メキシコの市場に連れて行ってもらった。1 日目に行った市場とは全く雰囲気違った。室内で、物はカラフルな色合いが多かった。そして物価が高く感じた。物価を高くしないとやっていけない事情があるのではないかと、移民の問題を垣間見るような思いだった。この市場の中に、テキサステック大学のお店があった。アメリカの野球チームのボール（日本の弟に購入）、Tシャツなども売っていた。買い物が終わったら、家に戻りゲームなどをしてお母さん、お兄さん、お姉さんと一緒に最後の時間を過ごした。もうすぐアメリカを離れることがさみしかった。

この3日間、僕たちが Lucero さん一家の一員になれてよかった。

Lucero さん一家は、僕たちがアメリカの様々な面を知ることが出来るようにたくさんの場所に連れて行ってくださった。英語が完全ではない僕たちを受け入れ、大変な配慮をいただき感謝している。今以上に英語力を身につけ、会いに行きたいと思っている。



中1・男子 & 中3・男子 Cribbs Family

ホームステイ 1 日目

急遽ホームステイ先が変更となった私たちは、クリブスさん一家にホームステイすることになりました。クリブスさんは、父、母、息子の3人家族で、お父さんは保険代理人、お母さんは会計士、息子のサムは15歳の高校生です。

ホストファミリー対面式で合流した後、夕食に『HAYASHI』という店に行きました。お父さんの話では、この店はお寿司の店で店主は中国人です。メニューに「Sashimi」もありました。私たちは生ものを控えた方がいいので、「Hibachi Steak」を注文しました。店員はテーブルの前の鉄板に油をひいてご飯を炒め始めました。さらに醤油のようなものをご飯にかけて炒飯をつくりました。その後、同じ鉄板でステーキを焼き、私たちのお皿にのせてくれました。とてもおいしかったです。

夕食後、車で数分のところにある戦争記念碑に行きました。そこには、戦争で亡くなったテキサス出身の人の名前などが書いてありました。なかには「WW II (第二次世界大戦) OKINAWA」と書かれたものもあり、いたたまれない気持ちになりました。その後、その記念碑のすぐ近くにお父さんとお母さんのオフィスだったので、お邪魔させていただきました。そこにはサムの写真や車の模型が飾られていました。お父さんは車好きで、トヨタ車2台とボルシェの計3台を所有しています。



家に到着し、お母さんからトイレやバスルームの使い方を教わりました。交代でシャワーを浴び、サムと一緒に Xbox で遊びました。その夜は12時ごろに寝ました。

ホームステイ 2 日目

朝、目が覚めると9時でした。リビングに行くとお父さんに朝食はシリアルかドーナツのどちらがいいかと聞かれたので、ドーナツと答えました。また、冷凍食品のベーコンも食べました。午後から出かけると思っていたので、午前中は Xbox をしました。

午後になり、お母さんの実家の農園に車で行き、農薬散布用の小型飛行機を見せてもらいました。昼食はマクドナルドでビッグマックを食べました。アメリカのビッグマックは、日本の物と大きさも味も同じでした。

昼食後、歴史博物館に向かいました。そこには、テキサスの歴史にまつわる物が展示してありました。石油をくみ上げる井戸の模型、古い家屋、恐竜の化石などを見ました。

その後、博物館から『パロ・ドゥアロ キャニオン州立公園』に行きました。公園内の溪谷は、アメリカならではの雄大な景色で私は感動しました。



夕方、お父さんに夕食は何がいいかと聞かれたのでステーキ！と答えました。ステーキ屋に着き、私は8オンス（1オンス約28グラム）のサーロインステーキを注文しました。デザートとしてチョコレートケーキを注文したところ、日本のケーキよりも数倍大きいものが出てきました。食べきれなかったなので、テイクアウトをお願いしました。

店の入り口には、「72 オンスのステーキを1時間以内に食べれば無料」と書いてありました。また、このステーキ屋には小さいゲームセンターがあり、私たちとサムの3人でガンゲームをしました。ステーキ屋を出て、車の中で星を見ながら家に帰り、シャワーを浴びて寝ました。

ホームステイ3日目

朝7時に目が覚めました。リビングに行くともまだ誰も起きていませんでした。朝食はシリアルを食べました。午前中は『Walmart』というスーパーマーケットに行き、お土産を買いました。そこはワンフロアなのにもかかわらず、売り場面積がとても広いので、様々な商品を取り扱っていました。

昼食はカフェテリアに行きました。そこはお皿の数で価格が決まる店でした。私はハンバーグステーキを注文し、食べ過ぎてしまいました。

食後は科学博物館に行きました。ここでも恐竜の化石が見られました。このことから、このあたりは恐竜がいた地域だとわかりました。飛行機のエンジンの模型なども展示されていて、とても素晴らしかったです。その後テキサス工科大学に行き写真を撮りました。両親はこの大学の出身だそうです。

今回のホームステイで、私はいかに日本の価値観にとらわれているか痛感しました。アメリカでは道の大きさ、家屋の広さ、食べ物など日本と様々な点が異なることを知りました。ホームステイ先のクリブスさん一家は、私たちが困ることのないよう、いつも笑顔で気を遣っていただき、また2泊3日という期間でたくさんのお話を聞かせてくれて、本当に感謝しています。ありがとうございました。



中1・女子 & 中3・女子 Waldmann Family

ホームステイ 1 日目

私たちは、ホームステイで、Waldmann ファミリーにお世話になりました。対面式の時に、2人でホストファミリーはどんな家族だろう、と期待と緊張で心臓が破裂しそうな気持ちで待っていました。いざ会ってみると、とても優しくて明るい家族で安心しました。お父さんの Phillip さんとお母さんの Amber さんは、優しく沢山話しかけてくれました。去年、武蔵野市に来た Kaitlin とは、日本のことで話も盛り上がりました。Trevor はとても面白くて、私たちがたくさん笑わせてくれました。

対面式の後、私たちはテキサステック大学に行きました。テキサステックはとても広くて、中に大きな道路も通っていました。偶然にも野球の試合をやっていたので、少しだけ観戦しました。その後、Phillip さんが COO である UMC (University Medical Center) という病院にいきました。病院も Phillip さんのオフィスも、全てが大きくてびっくりしました。夜ご飯には Orland' s へ行き、アメリカのご飯の量に圧倒されました。夕食後は、TARGET という店に行き、プールに入るための水着を買ってもらいました！

Waldmann ファミリーの家に着くと、家がとても大きく本当に驚きました。庭にはプールがあり、地下にはゲームルームもありました！私たちは Kaitlin の部屋に泊まることになり、部屋には自分専用のバスルームがあることにもびっくりしました。荷物を置いた後、日本からのお土産を渡しました。中でも、けん玉と立体四目が人気でした。私たちは、ブレスレットとテキサステックのTシャツをプレゼントしてもらいました。それからは、けん玉や立体四目、ジェンガをして遊んで、あっという間に楽しい1日目を終えました。

ホームステイ 2 日目

朝7:00に起きて、Phillip さんが作ってくれたオムレツを食べました。朝食後に、Phillip さんの病院で行われるピクニックに行き、そこでバレーボールのトーナメントに出場しました。吹奏楽部の私は必死でした。それでも、みんなが応援してくれて、とても楽しかったです！ピクニックには、大きな救急車や救助ヘリも来ていて、私たちも乗せてもらい、写真をとってもらいました。お昼にはハンバーガーを食べて、その後プレーリードッグを見に行きました。そこは柵もなく、すぐ近くで見ることができ、エサもあげることができました。プレーリードッグは小さくて、とてもかわいかったです。私はラボックに行く前から、見てみたいと思っていたので、すごく嬉しかったです！

そこから、パドルボードをするために、大きな川に向かいました。パドルボードはサーフボードのようなものに乗って乗り、パドルで漕いで進みます。私たちは初めての体験で漕ぐのが少し難しかったけれど、とても楽しかったです！

家に帰った後、Amber さんと Kaitlin、Trevor とスーパーへ買い物に行きました。パッケージが大きくて、びっくりしました。家に帰った後、Amber さんのご両親と Kaitlin と Trevor のいとも来て、みんなでステーキを食べました。本当においしかったです！食べ終わった後は、プールにネットを張ってバレーボールをしたり、UNO をしたりして遊びました。親戚の方々に、私たちが将来の夢について話すと、「ここの大学に来たらいいよ！」と言ってもらえて、



本当に嬉しかったです！みんなで盛り上がり、とても楽しい1日になりました。

ホームステイ 3日目

とうとうホームステイの最後の日になってしまいました。私は、最後の日を思いっきり楽しもうと思って朝を迎えました。朝ご飯は、色々な具が入っている Breakfast pizza でした。私はピザが大好きですが、日本では朝ご飯にピザを食べないので、いつもと違う感じがしてさらに嬉しかったです。朝食後は、洗車をしに行きました。乗車したまま、車がベルトコンベアーに乗っていて、自動で動くのが面白かったです。洗剤もカラフルで、全然見飽きませんでした。その後、近くの Starbucks に行きました。飲み物の量もやはり多かったけれど、とてもおいしかったです。昼ご飯は人気のお店に行き、Kaitlin が「ここはチキンがおいしいんだよ」と教えてくれたので、チキンの入ったメニューを頼むと、本当においしかったです！

昼食後、AmberさんとKaitlinと買い物に行きました。二人がとても一生懸命にお土産を探してくれたおかげで、私たちは服やアクセサリーやリュック、文房具、お菓子など、色々な物が買えました。けれど、楽しい時間はあっという間に過ぎ、さよならパーティーの時間になってしまいました。出し物も終わり、お別れのときは悲しくて、2人で泣いていたのを、「また来てね」と言ってくれてなぐさめてもらおうと、さらに涙が止まらなくなりました。

3日間のホームステイは、楽しくて充実した素晴らしい思い出になりました。そんな思い出をつくってくれた Waldmann ファミリーにとっても感謝しています。いつかまた、必ず、Waldmann ファミリーや、ラボックで出会った人たちに会いに行こうと思います。本当にありがとうございました！！



中1・女子 & 中3・女子 Villanueva Family

私は今回のジュニア交流団のプログラムの中で一番心に残ったのは、やはりホームステイである。ホームステイは人生で初めての経験だったため、以前からとても楽しみにしていた。ホストファミリー対面式では、ヴィラヌエバファミリーは少し遅めに私たちを迎えにきてくださった。おばあちゃんのメアリーはとても優しい方で、15歳のお姉さんのイザベラは落ちついていて大人っぽい印象、9歳で私の妹と同じ歳のマイリーは人なつっこくてとても可愛らしい印象を受けた。引率の方からの「楽しんでおいでね!」という言葉で、いよいよホームステイが始まるんだと思い、とてもワクワクした。しかしホテルの駐車場を出て、家にむかう間、私はホームステイが始まったばかりなのに泣いてしまった。なぜならペアの子はマイリーやイザベラと英語で楽しそうに話しているのに私は何を言っているのか全く分からず、とても不安になったからである。すると、おばあちゃんのメアリーはとても心配してくれて、私はまた泣きそうになってしまった。まず家に着くと、ビクターとトレイにむかえられ、家の中のルールの説明やシャワーの使い方や部屋の紹介を受けた。私たちはお礼を言い、荷物を下して日本のお土産をプレゼントした。するとメアリーはとても喜んでくれ、こちらも嬉しくなった。すると今度はヴィラヌエバさんからプレゼントを頂いた。ラボックの地域にしかない動物の置物や私のイニシャルが入った缶やピンを頂いてとても嬉しかった。さらにマイリーから絵とお菓子をもらった。「Thank you Miley.」と伝えると抱きついてきてくれたのがとても愛らしかった。7時頃にビクターにトルティーヤとトマトとお肉の料理と豆のつけ合わせという夕食を作って頂いた。多くて食べきれなかったが美味しかった。そしてイザベラがトランプでマフィアという人狼のようなゲームを始めた。するとみんなで大笑いしたり真剣に話し合ったりし、盛り上がった。夜の11時頃になり、ウォルマートに向かうとこんなに夜おそくなのに人がたくさんいることに驚いた。このプログラムが始まってモールにきたのは初めてだったため、私はすごく興奮し文房具やお菓子や服をかごに入れた。そして帰ってカードゲームをしてアイスクリームを食べ、1時半に寝た。



2日目は10時半ぐらいに起き、スーパーマーケットに行って朝食の食材や、夜に食べるアイスクリームを買いに行った。売られていたケーキやドーナツの色がすごく濃く驚いた。帰って来て、私たちはトルティーヤを焼くお手伝いをしてビクターと一緒に朝食を作り、ブリトーを食べた。その後、カードゲームをして遊び、私たちはTARGETに向かった。その車の中で、私はマイリーに日本のお金をプレゼントした。すると、5円玉を手にして「donut coin!」と言い、とても喜んでくれた。TARGETで私たちはホストファミリーへの感謝の気持ちを込めたプレゼントをサプライズで買う計画をしていたので、一人一人にこっそりプレゼントを買ったり、自分のお買い物もたくさんして、とても楽しかった。次に向かったのはアイスクリームショップだ。サイズが大きく、マイリーが注文したアイスクリームは花束のような大きさだった。その後は大きなモールに行き、お揃いの服を買い、フライドチキンを食べ、ジョイランドに向かった。ジョイランドは絶叫系の乗り物が多く、私はマイリーと一緒にたくさん乗り物に乗った。イザベラとトレイとはとても大きなジェットコースターと一緒に乗っ



とても盛り上がった。ジョイランドには1時間半ぐらいしか滞在できなかったが満喫でき楽しかった。そして夜中のお客さんがほぼいないウォルマートでお菓子を買い、家に帰った。するとビクターとメアリーからプレゼントを頂いた。(どうやら私たちのサプライズの計画に勘づかれたようだ) 嬉しかったが何だか申し訳ないような気持ちになった。この日は3時に就寝。

3日目は9時ごろに起き、メアリーが3人の通うそれぞれの学校に車で連れていってくれた。その後、ポテトとソーセージという簡単な朝食を食べ、カードゲームをし、市場に行った後、モールの中のバスグッズのお店に行き、お買い物をした後、ピザを食べて、あっという間にホテルに向かう時間になってしまった。こんなに素敵な人たちと出会えたのもうお別れしなければならないと思うととても悲しく、私たちは泣いてしまったが、また必ず会いに行こうと決心し、さよならパーティーに向け気持ちを切り替えた。本番では、全体の出し物と、グループの出し物の両方とも盛り上がってすごく楽しかった。

普段、私はホームシックを起こさないのに、日本に帰ってきて逆にホームシックを起こして泣いてしまうぐらい、私にとってこの2泊3日は特別なものになった。私達に優しく接し、とても楽しく貴重な経験をさせてくださったヴィラヌエバさんに感謝の気持ちでいっぱいだ。



中3・女子 & 中2・女子 Cornish Family

この1週間の中で私が一番楽しみにしていたプログラム、それはホームステイでした。私達がお世話になったのは、Cornish ファミリー、両親と4人の子供と犬1匹という大家族でした。

ホームステイ 1 日目

ホームステイ対面式の日、私達はホストファミリーがいつ来るのかワクワクすると同時に緊張でじっとしていませんでした。続々と他のホストファミリーが到着する中、中々現れず、少し不安に感じたのを覚えています。会ってみるとすごく優しい方々で緊張が次第にほぐれていきました。帰りは車で直接、The South Plains Mall に行きました。全員で8人だったため2台の車で向かいました。少し買い物をし、そこで夜ご飯を食べました。ハンバーガーとフライドポテトを食べたのですが、大きさはそこまで大きくはなかったものの、どちらもお腹にずっしりと来て、全部は食べ切れませんでした。その後、お母さんのお姉さんの家に立ち寄り、りんご飴を頂きました。大きなりんご丸一つを飴でコーティングしてあり、すごく甘そうでした。ちなみに、私は人生でりんご飴を1回も食べた事がなかったため、日本の家に持って帰って食べよう！と思っていたのですが、日本に帰って来た頃には少し腐っていたため、食べられませんでした。帰宅後、家の周りを散歩がてら一周しました。道路や沢山並んでいた家はどれも大きく、縦に高いマンションやビルが多い日本とは違い、街がゆったりと見えました。ポストは家の前にはなく、少し離れていて、十数人かの住人の方々と共有で鍵がかかっているそうです。お土産は全て「素晴らしい！」と言って喜んでくれましたが特に日本の文房具には心を惹かれた様子でした。夜は疲れて、早めに寝ました。

ホームステイ 2 日目

朝は二人とも8時に起床しました。既にお母さんと Danessa が洗い物や朝食作りにとりかかっていました。洗い物やごみ捨てなどの家事は曜日ごとに分担しているそうです。私は普段家事の手伝いをあまりしないため、母に申し訳なく思ったのと同時にこれからは積極的に手伝おうという気持ちになりました。朝食の前はお祈りです。Cornish 家は皆クリスチャンでした。皆で輪になって手を繋ぎ Alijah が唱えるお祈りを、目をつぶり、静かに聞きました。最後のアーメン以外、何も聞き取ることが出来ませんでした。心を鎮めることが出来ました。家を出たのは10時半頃で、朝市に向かいました。ピクルスの缶詰やピーナッツのお菓子を買っていました。お父さんが途中で自販機で買ったコーラにピーナッツを入れて、「最高に美味しいスナックだよ！」と言って、びっくりしました。続いて、Buddy Holly museum、Target を経てお昼ごはんを食べに、Amigos に行きました。そこで、偶然ほかの団員に会い、一緒にサンドウィッチを食べました。パンがサクツとしていて美味しいサンドウィッチを食べながら、この後一緒にバレーボールをしようという話になり、着替えのために一旦家に戻ってから公園に向かいました。ネットが私達にはとても高く、サーブが中々入りませんが、勝ち負けにはあまりこだわらず、皆で一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました。家に帰り、夜ご飯を食べると、少し眠くなってきましたが、Cory Jr、Danessa、お母さんとジェンガをしたり、話しながら2日目を終わりました。



ホームステイ 3 日目

朝ごはんは、普段私が食べているようなパン、チーズとゆで卵でした。このとき、テレビで子供の体力自慢大会のような番組を見ました。テレビに映る子供たちが失敗してしまうと、「Oh my god!!」と皆が叫んでいて、面白かったです。昨日と同様、10時半頃に出発し、craft shop、Walmart に行きました。craft shop で初日にお母さんからもらった、ブレスレットにつけるチャームを2つずつ買ってもらいました。Walmart はすごく広く、迷子になりそうな程でした。姉の誕生日が近かったので、バースデイカードを一緒に選んでくれ、可愛いカードを見つけることが出来ました。次にテキサステックのグッズの販売店に行きました。Tシャツやストラップ、コップなど沢山の商品に私達は見入ってしまいました。そして本当に偶然、またほかの団員に会いました。ホームステイ中に会わなかった日は1日もなかったように思います。初めてのホームステイでワクワクしていた反面、不安や緊張も大きかったようで、会う度にお互い話に夢中になりました。



Cornish ファミリーの皆さんは、とても思いやりに溢れる方々です。壁に掛けてあった家事の分担表、何気ない事で何事もなかったかのように手を貸してくれる優しさ、子供たちが食事の後に必ず言う「Thank you, mom.」に、私はすごく心が温かくなりました。私達を快く迎え、家族のように接して下さり、本当にありがとうございました。この3日間で得た素晴らしい経験をこれからの日常生活に活かしていきたいと思います。



中3・女子 & 中2・女子 Martens Family

ホームステイ 1 日目

私達のホストファミリーとは対面式が初対面となりました。きちんと会話ができるかなと不安と緊張でいっぱいでしたが、お会いしてみるととても優しい方で安心しました。昨年、ラボックジュニア交流団として武蔵野市に来た15歳の次女のAnnaはキャンプに行ってお会いすることができませんでした。18歳のNaomiはとても美人で優しくたくさん話かけてくださいました。

ホテルを出発しホストファミリーのご自宅に向かいました。日本ではなかなか見ない平屋のお宅でした。ご自宅には猫3匹と犬1匹が出迎えてくれました。マーティンズさんは音楽一家なので、ピアノ2台、オルガン、バイオリンなどたくさんの楽器がありました。お庭のテラスでスパゲッティなどの夜ご飯を食べながら、末っ子の弟のIsarcから飼っている蛇を見せてもらいましたが、オレンジ色だったのでとても驚きました。夕食後は「バレーボールをしよう」と言われ、近くの公園に行きました。公園はとても広くバレーのコートが4つもありました。バレーをしたのは9時半頃だったので、アメリカの人は夜遅くまで活動するのだなと改めて驚かされました。家に帰った後は庭にあったトランポリンで遊び、翌朝からキャンプに行ってしまうIsarcとお別れをして眠りました。



ホームステイ 2 日目

この日の朝食はホストファザーが作ってくださいました。私達が起きてくると「おはよう」と日本語で挨拶してくださいました。朝食後、Naomiの車に乗って朝市に行きました。アメリカでは16歳から運転免許を取ることができるので、彼女もすでに持っていました。Naomiの好きなBTSという韓国のアーティストのことなどたくさんのお話をしました。そして、Naomiの友達Hannahやホストマザー、ホストファザーと合流し朝市を見て回りました。Hannahもとても可愛く優しい人でした。朝市には興味深いものがたくさんありました。特に豚の皮を油で揚げたものが売られているのを見たときはとても驚きました。お店の人に1ついただいて食べてみるとスナック菓子を油でギトギトに揚げたような味がしました。その後、HannahとJ&B コーヒーというお店で合流することを約束し、ホストファザー、ホストマザーと別れ、テキサスステック大学の学生にも人気があるというコーヒーショップに行きました。Hannahも運転免許を持っていたので、車で来ました。その後、それぞれ車に乗ってモールに連れて行ってもらいました。そこで、私たちはお土産をたくさん買いました。お昼はHannahの妹がアルバイトしているハンバーガーショップへ行きました。そこでHannahとハグをしてお別れをしました。私達はホストファミリーが持っていたサンダルが可愛くて、それを買いたいと言っていたのでリサイクルショップに連れて行ってくださいました。そこでホストマザーと合流し、買いました。Naomiはアルバイトがあるのでここで別れ、ホストマザーと私達で午前中買い物に付き合ってくれたHannahへのプレゼントを買いました。そして一度家に帰って休憩してからスーパーマーケットに行きました。スーパーではとても高かったですがお寿司も売っていました。アメリカンロールのようなお寿司だけでなく握り寿司も売っていたので驚きました。夕食はNaomiが働いている飲食店で食べました。家に帰っ



た後、私とホストファミリーで庭にスクリーンを出して映画を見ました。それはイギリスのドラマだったので「学校ではイギリス英語とアメリカ英語どっちで学んでいるの？」など聞かれ、私の学校の授業について色々な話をしました。

ホームステイ 3 日目

最終日は朝食後、教会へ行きました。ホストファザーはオルガン奏者でこの日のミサでもオルガンを弾いていました。また、Naomi もバイオリンを演奏してくれました。この後ウォルマートへ行き、買い物をしました。ウォルマートはとても大きく、生活雑貨から食料品までたくさんのものが売られていました。家に帰ってお昼を食べた後、チョコチップクッキーを作りました。ホストマザーのお母さんから受け継いだというレシピで作りました。とても甘かったですが、美味しく作ることができました。そして、ホストファザーが作ったという卓球



台で Naomi・ホストファザー対私達で試合をして楽しみました。ここで、Naomi はアルバイトの時間になってしまい、さよならパーティーにも出席できないのでお別れをすることになってしまいました。Naomi とハグをした時は悲しくて少し涙が出てきてしまいました。そして楽しい時間はあっという間に過ぎホテルへ帰りました。

この3日間はとても長いようであっという間でした。「おはよう」や「おやすみ」など日本の挨拶にも興味を持ってくださり、私達を楽しませようとしてくれました。初めてアメリカの普段の生活を体験し、自分の目で見るからこそわかることをたくさん発見することができました。

中2・女子 & 中2・女子 Garcia/Salter Family

ホームステイ 1 日目

対面式の時、まだ1度もホストファミリーに会ったことがなかったので緊張していました。長女の Jaden は実父の家に行っていたので不在でしたが、残りの4人で迎えに来てくれました。対面式が始まるまで少し時間があつたので、スマホで写真を見せながら、自分の家族や日本の紹介をしました。Amaya はとても背が高かったので14歳には見えませんでした。彼女は去年団員として日本に来ており、彼女が体験したように、私たちを楽しませようとしてくれました。対面式が終わり、団長に挨拶をして家に向かいました。家に着くと、まず、私たちの部屋に案内されました。ベッドの上にはホストファミリーからのプレゼントが置いてありました。私たちもお土産を渡すと、とても喜んでくれました。Sophia はプレゼントしたウサギのカチューシャを気に入ってくれてずっとつけていました。次に、部屋に荷物を置き、家の中を案内してもらいました。とても広くて驚きました。お父さん専用のトレーニングルームがあり凄かったです。庭には3匹のシェパードがいましたがずっと吠えているので怖かったです。飼っているカメも見せてもらいました。その後、Amaya の部屋で遊びました。Amaya はLINE をやっていたので交換しました。しばらくして親戚の方が来たので自己紹介をしました。そうしているうちに夕食の用意ができました。この日はお父さんの Robert の誕生日だったので、家でホームパーティーをしました。親戚の方はみんなフレンドリーで沢山お話してくれました。夕食は牛肉を挟んだトルティーヤでした。お母さんの Stacy がこれはアメリカの BBQ なのだと教えてくれました。デザートはバニラアイスにリンゴシナモンソースをかけて食べました。夕食後、小さい子たちはテレビで映画を見ていましたが、それ以外で UNO をしました。私たちは疲れていたのでもみんなより早く寝ました。



ホームステイ 2 日目

前日に Sophia のいとこの Jasmine は家に泊まっていきました。朝食は、卵にチーズと昨日の残りのナチョスを入れたものとシナモンロールを食べました。朝食の後、しばらくして、プレーリードッグタウンに行き、プレーリードッグにえさをあげました。その後、Sophia と Jasmine の所属しているバスケットボールの試合を見に行きました。小学生未満だとは思えませんでした。Sophia 達のチームが勝ったので良かったです。その後 Jasmine 達とは別れ、Amaya の実のお父さんと義理のお母さんと Jaden に会い、一緒に BBQ のお店に行き、ハンバーガーと、ポテトサラダと、イチゴのパイを食べました。昼食後、テキサス工科大学博物館に行きました。そこではとても巨大な恐竜やマンモスの骨格や、テキサスで有名な綿の衣服や織物、キルトの展示、インディアンについての展示、絵画や彫刻などの美術品を見ました。お父さんはインディアンだったので、インディアンについて少し詳しくなれてよかったです。博物館を見学した後、ショッピングモールに行きました。Amaya は、日本のショッピングモールは広くて驚いたと言っていたけれど、アメリカのショッピングモールの方が広いと感じました。そこで、Tシャツなど家族や友達へのお土産を買いました。その後、Pretzelaker でプレッツェルを食べました。日本で見たことのある形とは違ったので聞いてみると、pretzel bites という小さい形のものだと教えてくれました。味は少ししょっぱかったけどおいしかったです。そして、スターバックスに行き、チャイティーを飲みました。夜に Joyland に行く前に家に帰り休憩しました。家ではビデオを見たり、pictureka というカードゲームをしたりしました。しばらく家でまったりした後、

Jaden と Sophia と明日仕事のあるお父さんを残し、Joyland に行きました。Joyland に行く途中で夕食にハンバーガーを食べに行きました。この日2回目のハンバーガーだったのでしんどかったです。その後 Amaya と Jaden の通っている学校に寄り道して Joyland に着きました。そこで偶然 Villanueva ファミリーの団員に会いました。アトラクションは絶叫系が多くとても楽しかったです。特にウォーターライダーは2種類乗り、どちらもズボンがびしょぬれになったけど楽しかったです。家に帰るとお父さんと Sophia と Jaden はもう寝ていたので、私達もシャワーを浴びて寝ました。



ホームステイ 3日目

朝起きるとお父さんはもう仕事へ行っていました。朝食はフレンチトーストとベーコンを食べました。ベーコンはカリカリでとてもおいしかったです。朝食後、家でネイルをしました。再びショッピングに行き、本屋に行きました。私は簡単な本を数冊買いました。次に、お菓子屋に行きました。自分で好きなだけ袋に詰めてその重さで払うシステムで、私はジェリービーンズを沢山買いました。その後 H&M で安くなっていた靴下とポーチを買いました。そうしたら、そこにほかの団員が来て少しお話をしました。買い物を終えて、昼食を食べに行きました。本当は Amaya が好きなタイ料理の店に行く予定でしたが、閉まっていたのでメキシコ料理を食べに行きました。私達はその場でナチョスを食べました。そして、一旦家に帰り、Sophia をバスケットボールの練習に送りホテルに戻りました。さよならパーティーでホストファミリーと別れるのはとても悲しかったです。対面式では緊張していた Sophia もすっかりなついてくれていたので、余計に悲しかったです。

この3日間で経験したことは、どれも新鮮で貴重なことばかりでした。とても短い時間でしたが、こんな私達を受け入れ、仲良くしてくださった Garcia/Salter ファミリーには感謝しきれません。また、いつかこの家族に会いたいです。



感想文・研修テーマ調査発表

氏名	感想文	研修テーマ
中1・男子	自分を変えたラボックでの1週間	なぜ、テキサス州では化石の発掘が多いのか？
中1・女子	The Greatest Days of My Life	テキサス州における風力発電について
中1・男子	ラボックで学んだこと	日本の料理との違い
中2・男子	忘れられない8日間	日本とアメリカの病院の違いについて
中3・女子	旅の思い出	日米の価値観の違い
中2・女子	ラボックでの8日間	アメリカと日本の文化の違い
中2・男子	ラボックでの貴重な体験	アメリカの日常生活
中2・女子	Experiencing American Life in Lubbock	アメリカ人の家事情と働き方
中2・男子	僕のおすすめ Best 5 ! in ラボック	現地英語に接して気づいたこと
中3・女子	史上最高の1週間	アメリカと日本の衣食住について
中3・男子	ラボックでの思い出	ラボックの綿花栽培について
中3・女子	ラボックでの思い出	ラボックで感じたキリスト教
中2・女子	あっという間の8日間	私が驚いた日本とアメリカの違い
中1・女子	出会いに感謝	テキサスレンジャーについて
中3・女子	ラボックでの8日間	アメリカの食事について
中2・女子	国を越えた絆	街のつくりについて

自分を変えたラボックでの1週間

アメリカに行く前は1週間もある、と思っていましたが、実際には4日間のように早く過ぎ去り、2週間分に感じる程の密度の濃い時間でした。この貴重な体験をさせていただいたこと、16人の団員に出会えたこと、アメリカ人との交流は一生忘れることはないでしょう。

出発の日、僕は初めての海外でしたが、特に日本から出国することへの緊張はなく成田空港行きのバスに乗ってしまいました。飛行機に乗ると周りはアメリカ人、そして機内放送は当然ですが全て英語。そこでやっとアメリカへ、武蔵野市の代表として行くのだと実感しました。

ラボックでの日々で特に印象的なことは市議会表敬訪問とアメリカの自然、ホームステイ先でのふれあいです。

ダラス経由でラボックへと飛行機に13時間乗りましたが、機内では団員と話をしたり、映画を見たり、していたため、あっという間でした。ラボックに到着してすぐに市議会表敬訪問へ。武蔵野とラボックの両市の尽力でジュニア交流団が成立しています。30年以上、双方の交流を継続できることへの感謝の意を伝えるためでしたが、そこでの温かい歓迎に感動しました。アメリカの市議会の進行は、日本と違いました。日本は決まった手順で議会を行います。アメリカではすべてアドリブで行われるそうです。議題によって流れも変わるし、臨機応変ということなのかなと理解しました。また少人数の議員で議会が進むことに興味を持ちました。この時ちょうどアフリカの代表者の人たちも来ていて「日本からやってきた中学生たち」と陽気に出迎えをしてくれました。



アランヘンリー湖とイーガート牧場はまさにテレビで見るアメリカの自然そのもので印象的でした。もともと事前研修を重ねる中で、すでに仲良くなった団員同士でしたが、2日目のアランヘンリー湖でのひとときで更に信頼関係が深まったと感じています。湖では足漕ぎボートに乗ったまま水鉄砲で打ち合いをしたり、遠くの方に行ったりしました。2日目のイーガート牧場は家族で経営をしている非常に大きな牧場です。終わりはどこだろうというほどの果てしなく広大な草原でした。牧場では、ナマズ釣り、ウォータースライダー、写真立て作り、乗馬などのアクティビティが用意されていました。ナマズ釣りは日本では経験できない

ことなので、新鮮な感動がありました。

記念品としていただいた写真立て、真ん中に貼る写真をこの時に撮りました。写真はテキサスレンジャーの人たち、そして馬に乗っている僕です。馬の上から見えた風景は今も目に焼き付いています。自然は人の心を開放させる、人との距離を縮めることが出来ると実感しました。

最後にホームステイ先の3日間のことですが、Luceroさん一家にはよくしていただき、いろいろなアメリカを見せようとスーパーから市場、博物館など、連れて行ってくださいました。ラグビー、サッカー、バレーボールなども一緒に楽しみました。

僕は将棋が趣味で10年やっています。テキサスには日本将棋連盟のテキサス支部がないことから初めての導入、となるか、と張り切って将棋盤セットと英語で書かれた将棋のルールブックを持ち込みました。日本の文化のひとつとして伝えたいと頑張りました。アメリカに来る前は、僕の中でアメリカ人は自己主張の強いイメージがありました。しかし、僕のつたない英語を冷静に優しく将棋を少しでも吸収しようと聞いてくれたことで、勝手にイメージを抱いていたと思いました。アメリカ人はこうなのかも、という思い込みで人を判断してはいけないと痛感しました。

スポーツも将棋も、ルールを知っていれば、人種や言語が違っても笑顔で関わる事が出来る。国境を越えて一緒に楽しめる、そのことを身をもって感じられたことは僕の中で大きなことでした

今後どんな困難が待ち受けていても、自分で考え行動すること、相手がどう思うか考え優先することを心がけようと思いました。様々な価値観に出会ってもまずは受け入れる度量の大きい人に、そして自分の意見を伝えることが出来るように英語力をさらに磨いていきたいです。いつかまたテキサスの方々に再会出来たらと思います。僕のラボック滞在を支えてくださったすべての皆さまに感謝します。



なぜ、テキサス州では化石の発掘が多いのか？



皆さんは、恐竜といえば何を思い浮かべるだろうか？
おそらく、ティラノサウルスやトリケラトプス等だろう。しかし、アメリカ・テキサス州では、それ以外の世界的に珍しい化石が出ている。例えば、ワニ型の草食恐竜、最古の恐竜や海中恐竜等の化石が、多く発掘されているのだ。そこで、“多種多様な恐竜の化石がテキサス州から多く発掘されるのはなぜか？”について調査した。

まず、化石発掘の割合を見ていただく。

化石発掘率 【2010年現在】

1位アルゼンチン	2位モンゴル	3位カナダ	4位アメリカ	5位モロッコ
6位タイ	7位インド	8位中国	9位ニジェール	10位イギリス

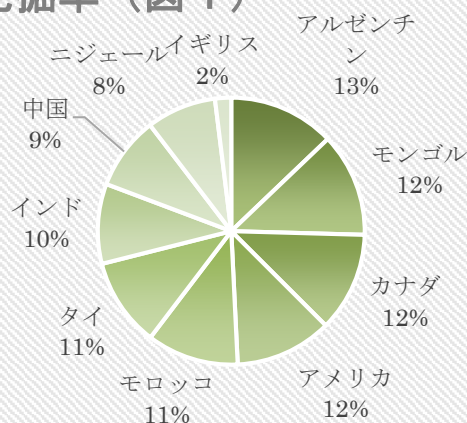
以下省略（現在モンゴルで大量の化石が発掘されているため順位に変動あり）

アメリカは世界でも珍しい化石が多く発掘されており、多種多様な恐竜が生息していたとわかっている。順位こそ4位だが、1位と比べても差はほぼないと言ってよいだろう。テキサス州から世界的に貴重な全身骨格が発見されていることを加えて考えると、よりテキサス州の特別さがわかってくる。さらに、陸上の恐竜以外にも、海中で生息していたとされる恐竜の化石等も次々と発掘されている。その理由について、次のような条件があるのではないかと考察した。

条件 1

生物が暮らしやすい気候であること

化石発掘率（図1）



最近の研究で、恐竜は羽毛の生えた恒温動物（*1）であることがわかってきた。恒温動物は気温が低い地域の方が大型になりやすいと言われている。しかし、変温動物と恒温動物が混在していたと考え、極寒な北極や南極、暑い赤道の近く等より、中緯度周辺に多くの生物が生息していたと考えるのが自然ではないだろうか。

条件 2

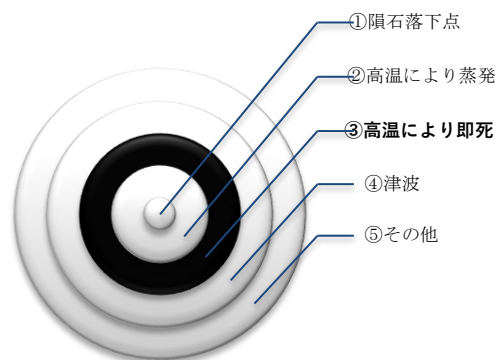
地形が全体的に平坦であること

恐竜が全長5mの大きな体に進化できたのは地形が平坦であったからではないか。あの巨体では山や谷を自由に動けないため、その地形に順応して小さな体に進化した可能性が高いだろう。

条件 3

恐竜が最もダメージを受ける場所に超巨大隕石が落ちること

直径10kmの隕石（*3）が地上に落ちると、地球環境を一瞬で変えてしまう。1000℃以上の高熱、500℃以上の熱風、津波、森林火災、酸性雨、そして太陽光の遮断等が左の図のように次々と起こる。実は、美しい化石として残る可能性が高いのは③の距離にいた恐竜である。



まとめ

テキサス州から化石が多く出る理由は、上記の3条件が揃っている場所なのではないか。化石発掘率(図1)が示す通り、上位の国で共通しているのは、寒暖差なく過ごしやすい気候(条件1)であり、平坦な土地(条件2)であることだ。そのため、多種多様な恐竜が生息していたと推測できる。

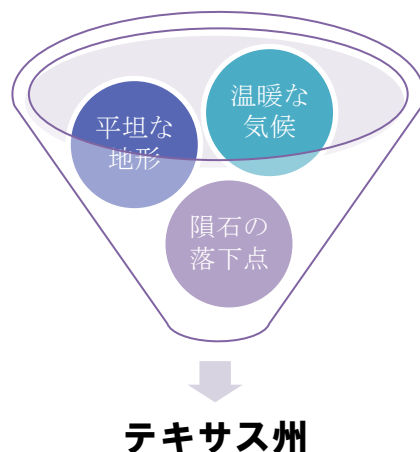
また、決定的ともいえる条件3の根拠として次のように考えた。大量絶滅は過去6回起き、最も有名なのが恐竜の時代である白亜紀(*2)のものだ。約6600万年前に隕石が落ちた場所として有力なのは、メキシコ東部の海、ユカタン半島北部である。その衝突跡をチクシュループ・クレーターと呼ぶ。マヤ語で「悪魔の尻尾」という意味であり、その直径は185km以上もある。この衝突で地球上の約80%の生物が死滅した。

隕石落下点から半径100km圏内は1000℃近い超高温により一瞬で全生物が蒸発し、200km圏内では約500℃の熱風により即死する。さらに遠い場所の生物は即死を免れるが、太陽光の遮断による植物の死滅が食物連鎖を根底から崩壊させ、長期的には大量絶滅につながるのである。数か月に渡って連鎖的に生物が死んでいった場合、先に死んだ大型恐竜を小さな肉食動物が食い荒らすので、美しい化石になる可能性が低くなるだろう。しかし、テキサス州と隕石落下点とは、全生物が熱風で即死する距離だったため、食い荒らされることもなく、上空に舞い上がっていたチリが降ってきて徐々に埋もれていくことで完全な化石として、後世に姿を現したのだ。

隕石落下点から半径100km圏内は1000℃近い超高温により一瞬で全生物が蒸発し、200km圏内では約500℃の熱風により即死する。さらに遠い場所の生物は即死を免れるが、太陽光の遮断による植物の死滅が食物連鎖を根底から崩壊させ、長期的には大量絶滅につながるのである。数か月に渡って連鎖的に生物が死んでいった場合、先に死んだ大型恐竜を小さな肉食動物が食い荒らすので、美しい化石になる可能性が低くなるだろう。しかし、テキサス州と隕石落下点とは、全生物が熱風で即死する距離だったため、食い荒らされることもなく、上空に舞い上がっていたチリが降ってきて徐々に埋もれていくことで完全な化石として、後世に姿を現したのだ。

渡米前に考察していた仮説を持って、テキサス州の恐竜博物館等で資料や模型等を視察したが、考えていた条件が間違っていないと確信した。

隕石落下がなければ、恐竜時代は続き、今も恐竜の子孫が繁栄している可能性が高い。人類が存在する確率は1%未満であるという。ラボック市の方々はそうした恐竜のロマンを身近に感じ、生活していることで、スケールが大きく開放的な人が多いのだと思う。



- *1 気温や水温等周囲の温度に左右されず、自らの体温を一定に保つことができる動物。
- *2 地質時代の一つで、約2億4500万年前から6600万年前を指す。この時代は、前のジュラ紀から続く中生代の最後の時代であり、恐竜の最後の時代である。
- *3 惑星間空間に存在する固体物質が地球あるいは惑星表面に落下してきた時、大気を通過中に高熱で気化せずに残ったもの。
- *4 ・太陽系小天体のうち、星像に拡散成分(コマやそこから流出した尾)がないものの総称。
{対義語…彗星(拡散成分があるもの)}



The Greatest Days of My Life

私がアメリカで過ごした6泊8日は、とても貴重な体験で、一生の思い出になりました。今は、お世話になった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。

私は小さい頃、カナダに住んでいたこともあり、異文化交流や世界のことについて興味がありました。そのため、交流事業団としてアメリカにいけるかもしれない、と知った時には、『絶対に行きたい！！』と思いました。面接の時には、とても緊張していて、受かるかどうかとても心配でした。なので、合格通知が来たときは本当に嬉しくて、『早くアメリカに行きたい！！』と思いました。一方、現地の子と仲良くなれるかな、という不安も少しありました。けれど、今では心配する必要なんてなかったと思います。派遣中は毎日色々なプログラムがあり、とても充実した一週間になりました。現地の子たちともすぐに仲良くなって、時が経つのがとても早く、一週間もいたなんて信じられません。このレポートでは、その中でも、ホームステイ以外で特に心に残った2つのプログラムについて紹介します。



1つ目は、アランヘンリー湖です。アランヘンリー湖は、現地の子たちと交流する最初のプログラムでした。前半は、モーターボートの後ろからロープでゴムボートを引っ張ってもらったり、ボートから湖に飛び込んだりして遊びました。モーターボートに乗っている時は、涼しい風がたくさん来て、気持ちよかったです。ボートからまわりを見ると、水がキラキラと光っていて、景色もとてもきれいで全然見ていて飽きませんでした。後半は、現地の子たちと一緒に水鉄砲で水をかけあって遊びました。最後は、みんなでデッキのような所から、飛び込んでいましたが、最終的にはまわりの人を湖の中につき落とす謎のゲームになっていて、何回も落とされて疲れたけれど、みんなと仲良くなってよかったです。アランヘンリー湖は私にとって、とてもいい思い出になりました！

2つ目は、イーガート牧場です。イーガート牧場はとても広くて、最初見たときは声が出ませんでした。イーガート牧場では、プールやウォータースライダーや乗馬、BBQ などがあり、何度もまわりました。女子は、髪に色のついたきれいな羽をつけてもらいました。髪を少しだけ染めた感じでおしゃれな気がして、私はとても気に入りました。プールでバレーボールをしたときは、言葉の壁を気にせず楽しんで、現地の子たちとも仲が深まったように感じられました。その後、現地の子たちに誘われて、キックボールという野球とサッカーを混ぜたようなゲームをしました。私は初めてこのゲームをしました。丁寧な教えてくれたおかげで楽しめました。乗馬では、思ったよりも馬が大きくてびっくりしました。けれど、高い所からの眺めもきれいで、楽しかったです。イーガート牧場では、様々なアクティビティを用意してくださって、本当に貴重な体験ができました！



この2つ以外にも、市役所の表敬訪問、警察学校、風力博物館、MAIN EVENT、さよならパーティーなど、ラボックでは色々な体験ができ、どれもいい思い出になりました。そして、最後には『もっと長くいたい！帰りたくない！』とっていました。そのため、さよならパーティーの時は悲しくて、涙が止まりませんでした。ホストファミリーに「また来てね」となぐさめられながら、『また近い将来に、必ずラボックに行こう！』と決意しました。



アメリカで過ごした6泊8日は、とても貴重な経験でした。たくさんの人たちとの交流を通して、世界には色々な文化があり、違う点もあるけれど、共通点もたくさんあることを感じました。そして、思い込みにとらわれずに交流することが大切だと学ぶことができました。今後も、この貴重な経験を生かし、未来に向けて進んでいきたいと思っています。武蔵野市の方々、応援してくれた家族、ラボック市の方々、ホストファミリーの方々、一緒にアメリカで過ごした団員のみんな…など、多くの方々にお世話になりました。本当にありがとうございました！！ Thank you very much！！

テキサス州における風力発電について

近年、地球温暖化対策で世界の国々が力を入れている、再生可能エネルギー発電ですが、日本におけるエネルギー供給のうち、まだ8割以上を火力発電が占めており、エネルギー資源の多くを輸入に頼っています。

私はラボックに行く前、テキサス州は再生可能エネルギー発電の一つである、風力発電がとても盛んな地であることを知りました。テキサス州は以前、『石油の州』と呼ばれるほどの石油産出州でしたが、今では『風力発電のテキサス州』と呼ばれるほど風力発電が発展してきています。私は、なぜテキサス州は風力発電が盛んであるのか、どのようにして盛んになったのかを調べてみることにしました。そして、そのために使われる風車についても調べてみました。

《風力発電が盛んな理由》

① 風が強い（風車に当たる風は、毎秒7.7~8mくらい）

私たちが見学した風力博物館や発電所でも、風が強かったです。風車は少し小高い丘のようなところにあり、まわりには、風をさえぎるような高い木やビルもありませんでした。なので、そのような風をさえぎる物がほとんどないテキサス州は、風力発電に適しているのだと分かりました。

② 土地が広く、安い

ラボックは、まわりを見回すと、しっかりと地平線が見えるよう広大な土地でした。土地が広く、土地代も安いので建物も広いのだと思いました。日本では、地平線などめったに見られませんが、ラボックでは見えないところはない！というくらい広くて、感動しました。

③ 風力発電のための風車にかかる費用が少ない（テキサス州の政策）

- ・風車をつくるための County（郡）の許可が不要
- ・風車にかかる消費税が免除される
- ・財産税の減免措置がある

これらの理由から、風力発電のための風車にかかる費用が少なく、風車がつくりやすくなっています。

《風車について》

私たちが見学した風力博物館では、200を超える風車が展示されていました。1860年代の昔の風車から現代の風車まで、色々な国でつくられた風車や、色々な種類の風車がありました。そして、時代と共に変化する役割に合わせて、風車のつくりや形も変わっていることが分かりました。

～風車の役割～

風車には様々な用途があります。例えば…

- ① 地下から水を汲み上げる
- ② お米や小麦をひく
- ③ 発電

など（これ以外にも、機織りや丸太を切るなどの色々な使い道があります）昔は、自分が望む用途のために、自分で風車をつくることもあったそうです。最近では、発電のために風車を使うことが多くなっているそうです。

《まとめ・感想》

昔から、人々の暮らしに密接に関わってきた風車ですが、テキサス州では、風が強いことや土地が広いことなどの地理的条件を活用し、さらに州政府の政策の後押しもあり、風力発電が発展していることが分かりました。そして時代と共に、風車の役割や形も変化していることも学びました。

私は、自然豊かな日本でも、環境のことを考えた再生可能エネルギー発電がさらに発展して、地球全体の環境問題の解決につながってほしいと思いました。そしてこれからも、自分自身で色々な地域や国の取り組みを調べ、様々な環境問題について学んでいきたいと考えています。



ラボックで学んだこと

今回の8日間の研修では、「アメリカ人の優しさ」を体で実感すると共に、外国人との「コミュニケーションの重要性」を学びました。私達は、面接と4回の研修を得てアメリカへ旅立ちました。私は今回の研修で、コミュニケーションの仕方が一番の不安でした。言語が異なり、英語もほんのわずかししか喋れないのに、どのようにしてコミュニケーションをとるのか…。英語を喋る機会がありながら、方法を考えている間に、3日間が過ぎてしまい、一番楽しみにしていたホームステイの当日がやってきました。2日前にトラブルがあったこともあり、ホストファミリーが急遽変更になるという事態にもなりましたが、無事ホームステイを開始することができました。

私のホストファミリーの、Cribbsファミリーは、Stanさん（お父さん）とKerrieさん（お母さん）とSamくん（15歳）がいました。Cribbs家の自宅へ向かう途中に、身振り手振りで趣味や好きな事を聞くと、Samくんと趣味が同じで、会話という会話はできないけれど話は弾みました。この時、とても不思議な気持ちになりました。そして、コミュニケーションは言葉のみで行われるものではなく、多くの可能性があることを学びました。夕飯は、私達に気を使ってくれてステーキ兼寿司が食べられる鉄板屋さん、「林」で食事をしました。林では、逆にCribbsファミリーが私達に向けて質問することが多かったです。他にも、寿司が食べられるだけあって、日本の伝統的な景色を思い出させてくれました。店の中に石橋がかけてあり、その下を鯉が泳いでいました。また、浮世絵も飾ってあり



ました。料理はアメリカの寿司を食べてみたかったのですが、結局ステーキを食べることにしました。料理を作るところでもアメリカならではの工夫が見られました。まず、コックさんが自分達の前にある鉄板に来て、金属ベラを使ってパフォーマンスを見せてくれました。この時アメリカ人は人のことを楽しませることが得意だと分かりました。また、見ず知らずの人達が同じ鉄板で料理を作ってもらうのですが、林の場合日本とは違って、ホストファミリーはもちろん見ず知らずの人達が注文した料理までも分けて、食べさせてくれました。他にも驚かされたことがありました。日本だと、見ず知らずの家族と相席になると、どうしてもぎこちなくて日常会話のような話ができないように感じますが、アメリカ人の場合、まるで何度か会ったことのあるような口調で話をしていて、アメリカ人のフレンドリーな所を感じると共に、自分達以外の家族と話すことがおかしいという日本に染み込んでいる固定概念が無いということを実感しました。私自身も感じましたが、そのおかげで気軽に話しやすくなっていて、日常的に自分達がより過ごしやすく感じました。その後、ついにCribbsファミリーの自宅に到着することができました。

初めてアメリカの自宅に入った時の感想は、部屋でも車庫でもなんでもスケールが大きいということでした。荷物を用意された部屋に置き、すぐにSamくんの高校を見に行きました。Samくんの高校は、日本の高校とは比べものにならないくらい広く、大学のようなものでした。また、スポーツをするコートには、芝が敷いてあり環境も整っていました。ホームステイ2日目は、朝Stanさんの自慢の車、ポルシェに乗ってドーナツとフルーツを買いに、ドーナツ屋さんとスーパーマーケットに行きました。アメリカで見る初めてのドーナツは、日本の大きさと大して変わりはなかったのですが、やはり味は濃く甘かったです。また、アメリカ初のスーパーマーケットはとても興奮しました。Stanさんが私のことを友達に紹介してくれて、武蔵野市に以前来てくれた人達以外の、初めて対面した人とも

知り合いができたため、とてもテンションが上がりました。その後、浜谷へ連れて行ってくれたり、PPHMと言う博物館や、プレーリードッグと触れ合えるエリアに行くなど、貴重な体験をさせていただけました。



さよならパーティーも無事終え、いざ日本に帰るとなると、私達のために色々な計画を立てていただき、さらにはプレゼントまで用意して下さったCribbsファミリーに、感謝の気持ちでいっぱいになりました。今回出会った人達は、とても今後生きてくる経験をさせてくれました。今回学んだこと、貴重な経験をさせてくれたことを生かして、また一段階レベルアップした自分でラボックに行きます。また、今回の仲間のジュニア交流団のみなさん、皆さんのおかげで楽しく充実した8日間を過ごすことができました。ありがとうございました。

日本の料理との違い

私はラボックの料理について、アメリカという日本と「風土」も「気候」も違う中で、どのような料理が頻繁に食べられるのか、また伝統的な料理は何なのかに興味を持ったので、調べることにしました。そして日本は、和食などの料理のイメージも強いと私は感じたので、日本とも比べるとより考えも深まると思い、このテーマにしました。

《事前の知識・イメージ》

- ・アメリカ人の方達は、圧倒的に食べる量が多い
- ・ステーキなどの、肉をよく食べる
- ・味が単純
- ・ヨーロッパ、日本食のような繊細さが無い



《伝統的な料理》

ステーキ…日本で食べるステーキとは、比べ物にならないくらい大きく、そして分厚く、味付けは単純だけれど、しっかり肉の味がして美味しかったです。また、私がホストファミリーと行ったステーキ屋さんは、ものすごく大きいステーキを、1時間で食べられるかを競い合っていて、ラボックの人達から親しまれていると実感しました。

BBQ…バーベキューは、研修中にも食べられました。私達が食べたメニューには、ホットドッグと野菜（グリーンサラダ、ポテトサラダ）、ジュース（Coke、Sprite）がありました。

メキシカン料理…タコスなどがあります。私達の行ったメキシカン料理屋さんには、自分達の注文した料理が届くまではドリトスのような、トウモロコシの粉で作ったような物を、トマトソースにつけて食べました。具は牛肉や野菜が入っていましたが、とても油っこかったです。



《日本の伝統的な料理のイメージ》

- ・寿司やそばや味噌汁などさっぱりした料理をイメージします。
- ・健康的な料理のイメージ。

《結果》

日本とラボックの伝統的な料理を比較すると、日本の料理は健康的や、さっぱりというイメージなのに対して、ラボックの伝統的な料理は、ボリュームもあり、肉をメインで食べる料理が圧倒的に多かったです。それと同時に、ラボックの人達の体の大きい理由が、分かったような気がしました。

忘れられない8日間

僕はこの8日間で沢山の貴重な経験をしました。僕が海外に行くのは、今回で5回目でしたが、親元を離れて行く初めての海外でした。

出発当日。朝早く起きてすぐ心配がこみ上げてきました。バスに乗っても、成田空港に着いても、飛行機に乗り込んでも、心配は心の中から出ていきません。その心を読んだかのように、飛行機は僕たちを乗せたまま待機しているだけで、離陸しません。1時間以上してからようやく離陸し、僕はしばらく見られない日本の大地を窓から眺めていました。機内での12時間はとても長いものでしたが、その間に心配は少しずつ小さくなり、かわりにどんな8日間になるのだろうという期待が大きくなっていきました。ダラス空港で初めて一人で入国審査に挑戦し、その頃には期待で胸が一杯でした。時差ボケなのか、体は動くのに、頭は寝ているようなフワフワした不思議な感覚を味わいました。

2日目。アランヘンリー湖に行きました。僕は泳ぐのが得意で楽しみにしており、午前中は水鉄砲合戦などをして楽しくすごすことが出来ました。しかし午後、僕は船で頭を強打し脳震盪を起こして気絶しました。男子のみなさん、僕の救助を待つ長い時間で肩を日焼けさせてしまい申し訳ありませんでした。そして女子のみなさん、沢山待たせてすみませんでした。目を覚ましてみると、なんともう3日目の昼！！僕がどれだけの時間、体験を無駄にしたか、どれだけ沢山の人に迷惑をかけたか、ベッドの上で心から反省していました。

しばらくして僕は集中治療室から一般病棟へ部屋を移されました。その日の夕食は、カレー味のラザニアのような物でしたが、ショックで喉をあまり通りませんでした。その後立ち上がってみると、足になかなか力が入らずフラつきました。その時にやっと「とんでもないことしたな。」と気が付き始めました。

4日目。朝食はカラフルなシリアルで、食べ終わると何人もの医師が部屋に入ってきて検査をしてくれましたが、筋肉が硬直していて動かさにくい僕にはなかなか辛い事でした。

お昼頃別の医師が入ってきて僕を別室に連れて行きました。その部屋は暗く、遠くの方に「RMFCW」という



5つの文字が出てきて、読んでみるように言われました。大きなスプーンのようなもので目を隠すように言われたので視力検査だとわかりました。昼食はビーフシチューでした。アメリカの入院生活では検査方法や薬や食事など日本との違いを沢山体験することが出来ました。看護師さんが英語のレッスンもしてくださいました。怪我の功名です。いよいよ退院し、みんなのところへ戻りました。ホストファミリー対面式の前に団長に呼ばれ、ホームステイ先の交換の話をされました。最初の予定では、去年僕の家に来てくれたサム君の家に行く予定だったので、変更はショックでした。その日はルセロファミリーと少し買い物してから家に帰りましたが、帰りの車中、僕の知っている音楽が流れたので、英語で大きい声で歌ったら、ジョン君がとても喜んでくれました。そこで緊張していたのがほぐれました。家に着いたら疲れていたの、少しだけ遊んでから寝ました。

5日目。朝食はヨーグルトとベーコン。朝市に行って、英語を使って一人で買い物をしました。会話をしたり、少しおまけもしてもらえて、自信ができました。その後、家の博物館や恐竜の博物館、服の博物館に行きました。夕方には鮫島・仲丸ペアと地域の人達とバレーボールをして（僕は見学）楽しみました。夕飯はハンバーガーとポテトを食べました。日本に比べて圧倒的に量が多く、半分食べてあとは家に持ち帰りました。

6日目。ブルーベリーカップケーキを食べて、昨日とは違う朝市に連れて行ってもらいました。お土産を選んで、自信が出てきた英会話で買い物をしました。その日の午後、遂にホストファミリーとのお別れの時がやってきてしまいました。感謝の意を表して心をこめて今まで練習してきたソーラン節を踊りました。大成功です。ホストファミリーも喜んでくれたと思います。それぞれ最後の時を惜しみながら僕たちはホテルに戻りました。

7・8日目。出発の時にあった心配など嘘のように、もっとアメリカにいたいと思いながら日本に向けて飛行機が飛び立ちました。

この旅を通して僕は、伝えたいと強く思い話をする事の大切さに気が付きました。行く前は心配だった英会話ですが、思い切って恥ずかしがらずに「伝えたい！」という気持ちで話してみたら、自然に会話することが出来ました。文法や単語が間違っていたかもしれませんが、でも伝わったのです。これから英語の勉強をもっとして、英語圏の人と沢山話合せて、心から分かり合える関係になれたらいいと思います。

この旅でお世話になった引率の皆様、団員の皆さん、ラボックの皆様、病院の方々、本当にありがとうございました。



日本とアメリカの病院の違いについて

僕がこのテーマを選んだ理由は、今回の旅行中アメリカの病院で入院することになってしまい、入院中、日本とは違うなと思うことが沢山あったので、自分が経験した事をもとに、日本とアメリカの病院の違いについて調べてみたいと思ったからです。

今まで日本で入院などしたことなかった自分が、まさかアメリカで入院することになるなんて想像もしていなかったもので、この経験を無駄にはしないぞと思ってまとめてみました。

日本とアメリカの病院の違い

	日本	アメリカ
服	基本白色など淡い色	基本青色や桃色など濃い色
看護師の性別	女性が多い	男女半々
看護師の年収	約 480 万円	約 1000 万円
看護師の権限	患者の診察、怪我の処置・検査、薬の処方などの権限が無い（医師の指示が必要）	患者の診察、怪我の処置・検査、薬の処方などの権限が有る（医師の指示は不要）
お見舞いの品	花束など	風船・ぬいぐるみ
傷の縫い方	溶ける糸で針数多め (後日抜糸不要)	溶けない糸で針数少なめ (後日抜糸必要)
入院中の食事	カロリーや塩分などが計算された薄味の病院食 (各自のタイミングで食べ始める)	レストランなどで出されるような美味しい通常食 (各自お祈りを捧げてから食べ始める)
視力検査	○のどこが欠けているかを答える	アルファベットを読む
救急車	無料	有料
救急ヘリ	あまり導入されていない	国土が広いので積極的に導入されている
保険	公的な医療保険に必ず加入	民間の医療保険に任意で加入
医療費	安い	高い
患者衣	白や水色など淡い色	黄色（靴下も）
救急電話番号	119	911

感想

僕が入院して分かった事は、日本とアメリカとでは、病院の治療方法や検査方法、食事など、色々な点において沢山の違いがあるという事です。僕はもともとメガネをかけているので目の検査はよくしていますが、視力検査の方法があまりに違ったので、とても驚きました。（最初何をするのかわからずとまどいしましたが、大きなスプーンのようなものを渡されたのでよくやく視力検査だと理解できました。）

上記のように様々な違いはありましたが、怪我をした僕を治そうと、一生懸命治療してくれたり看病してくれたアメリカの病院の医師の方や看護師の方の優しさは、日本の医師の方や看護師の方と全く同じだと感じました。

気絶するのも入院するのも手術もすべて僕にとって初めての体験でした。皆さんにはご迷惑とご心配おかけして申し訳ありませんでしたが、滅多にないいい経験が出来たと思っています。ありがとうございました。



旅の思い出

私はジュニア交流団で行くラボック市が私にとって初めての海外となりました。楽しみと思う反面、不安や緊張もありましたが、現地に行くからこそわかることをたくさん吸収したいと考え、この事業に参加しました。

私は自分の目で見て、感じることを大切にしたいと考えていました。実際のところ、ホームステイをしたりと、普段はなかなかできない体験をすることができ、新たな発見も多くありました。

この事業で特に楽しかった2つの出来事を紹介します。1つ目は、アランヘンリー湖での水遊びです。今回の派遣で初めてラボックの方と交流をする機会でした。はじめは話しかけようとしても緊張してなかなかできませんでしたが、遊んでいるうちにお互いの緊張が解け、楽しく過ごすことができました。2つ目は、イーガート牧場です。馬や家畜など動物がたくさんいるところなのかなと思っていたら、大きな家があったのでとても驚きました。日本では想像もできないとても広い家でした。プールは、まるでテーマパークのようなウォータースライダーがあり、泳いだり、バレーボールをしたり、牧場では馬に乗せていただいたり、とても楽しい時間を過ごすことができました。

また、ラボックの方は当たり前ですが、とても流暢な英語で会話をされます。それに加えて少し訛りの入った英語を話されるので、知っている単語も知らないものに聞こえてしまうことが多々ありました。しかし、ラボックの方は聞き直しても、ゆっくり話して下さったり、丁寧に説明して下さり、皆さんの人柄の良さを感じることができました。

最後に、この事業に参加する機会を下さり、支えてくださった武蔵野市の職員の方々、お父さん、お母さん、そして何よりラボック市の皆様に御礼申し上げます。



日米の価値観の違い

アメリカは多民族国家であり、様々な文化が入り混じっている国です。だからこそ日本では知ることができない物事の捉え方や価値観を知ることができました。そもそも価値観とは何でしょう。辞書によると価値観とは「いかなる物事に価値を認めるかという個人個人の評価的判断」と出てきます。では、私が気になった事と当てはめて見ていきましょう。

まずアメリカは愛国心が強いという事です。ラボック市にいます。アメリカ国旗やテキサス州の州旗「ローン・スター」をよく見かけ、人々に愛されている事がうかがい知れました。それに対し、日本人はどうでしょうか。少なくとも私はこの事業の前後でこの愛国心に対する考え方は変わったと思います。アメリカに行き、日本を誇らしく思う機会がとて増えました。例えば、飛行機での客室乗務員の対応は、互いの国の文化の違いとは理解していても、日本の「おもてなし」の精神は素晴らしいものだ改めて感じます。

次に宗教に対する考え方です。私のお邪魔したホームステイ先では食前にお祈りをし、教会にも連れて行ってくださいました。アメリカでは宗教は身近なものになっており、信仰心があると言えます。では日本人は信仰心があるかと質問してもほとんどないと答えると思います。実際にそのような調査結果もあります。しかし、多くの日本人は神社仏閣などに参拝しています。その理由としては、日本人のお参りには現世利益主義的な考えがあるとも言えると思います。そして、日本人の心の奥には信仰心は持たなくとも宗教に頼っている部分があるのかもしれない。

最後に性格の違いです。アメリカ人は「個」をとて大切にしている、独善的とも言えるほど自分の持ち味を前面に出すように感じます。日本人は逆に周りと同じ色に、集団の中で自分を出すことを得意としない、もしくは遠慮がちになる傾向がある印象を持っています。私としては、日本人は自分の意見を言い、「個」をもっと大切にしていくべきだと思います。

固定観念で物事を見るのではなく、互いの国の価値観を尊重することが真の文化交流になっていくのではないのでしょうか。私自身も今まで考えたことがなかった事を考え直したり、知らなかったことを見て学びました。自分自身の成長につなげていこうと決心しました。



ラボックでの8日間

ジュニア交流団の面接が終わり、数日後…。私が交流団の一員に選ばれたことを知った時は、声を上げて飛び跳ねて喜んだことを覚えています。それから出発までは、武蔵野市の紹介として井の頭公園や賑やかな吉祥寺の街並みの写真を撮ったり、あと私は文房具が大好きなので最先端のものや日本ならではの文房具などお土産を選んだりして、出発の日を待ちわびていました。出発当日は小雨のなか早朝にもかかわらず、みんな集合時間より早く到着していました。ラボック出発までの4回の研修の中で他の団員とも段々と打ち解けあい、アランヘンリー湖で遊ぶ頃にはもうすっかり皆仲良くなっていました。

イーガート牧場では、かき氷の屋台、プールやウォータースライダーなど、たくさんの歓迎をイーガート夫妻から受けました。ウォータースライダーは予想以上にスリリングで楽しかったです。プールにはボールとネットがあり、現地の子供たちも交えてみんなでバレーボールをしたり、キックベースを庭でしたりとても思い出に残る一日でした。

滞在中4日目いよいよホームステイが始まります。出発前は上手く思っていることが伝わらなかったらどうしよう等心配はありましたが、ここまでくれば心配事よりもこれから過ごす3日間にワクワクする気持ちの方が大きかったです。特に、私はひとりっ子なので6人家族の Cornish ファミリーの一員になることが出来て嬉しかったです。お父さんとお母さんはとても優しくユーモアがあり、4人の子供たちも私たちに話しかけてくれて日本についての質問もたくさん受けました。なかでも末っ子の Cory Jr. 君 8歳には滞在中何度も笑わせられ、すぐに打ち解けました。ルーシーという元気な犬もいました。私は動物が大好きなので、今回のラボック滞在中で色々な場面で犬と触れ合うことができ気持ちが癒されました。アメリカの人にとって犬はとても身近な動物です。ルーシーもそうですが、アメリカでは Rescued dog (保護犬) と言って、ペットショップの仔犬ではなく保護犬を積極的に受け入れる家庭が多いのです。とても素晴らしいことだと思います。今後、日本でも保護犬を家庭で受け入れる制度がメジャーになるといいなと思いました。

週末はホストファミリーとショッピングモールで買い物をしたり、ほかのホストファミリーと合流しバレーボールを楽しみました。(この時モールでお土産として購入した良い香りの除菌ジェルが友達にも大好評でした！)

滞在中最終日の夜は、アメリカで買ったお菓子を持ち寄りみんなで女子会を開きました。面白かったこと、お土産、ホームステイ先での出来事などの旅の思い出について喋ったり、みんなで変顔の自撮りをしたりと楽しく過ごしました。「いよいよ明日は帰国だね。」「またいつかラボックに来たい!」なんて話していました。今回ジュニア交流団の一員に選んでいただき、素晴らしい経験ができたのはもちろんですが、間違いなく今後の私の考え方、将来へのヒントや勇気に繋がっていくと思います。

最後になりますが、心温まるおもてなしをして下さったラボックの方々、このような機会を与えて下さった武蔵野市職員の方々、研修から帰国までサポートして下さいました引率の方々へ心から感謝致します。そして一緒に過ごした団員の15名のメンバー達、最高の思い出と一緒に作ってくれてありがとうございました。



日本とアメリカの文化の違い

私たちの住む日本とアメリカとは文化や習慣など異なる部分が多くあります。渡米前のイメージとしてアメリカ人の多くは、自分の意見をはっきり主張するのだと思っていました。実際ラボックへ行って感じたことは、アメリカの皆さんは心が広く、とてもフレンドリーで社交性が高かったです。ショッピングモールに買い物に行った時も店員さんが「どこから来たの?」「あなたピンクが好きなのね」など色々と話しかけられます。

ホームステイが始まり、まず最初に驚いたことはホストブラザーたちのレディーファーストです。乗車時は Alijah 君 16 才が扉を開けてくれて私たちを乗せます。降車時は Abram 君 14 才が真っ先に降りて、私たちのために扉をあけてくれます。Cory Jr. 君 8 才も積極的にレディーファーストをします。誰に言われる訳でもなく、きっと小さな頃から根付いている文化なのだと思います。

そしてアメリカにはサービスを受けたらチップを渡す習慣があります。例えば、私たちはホテル利用時に枕元にチップを置きました。慣れないことに対して枕の上に置くべきか下に置くべきかちょっと戸惑いました。

チップ文化についてホストマザーに尋ねたところ、ホテルだけではなくレストランや美容院やタクシーにもチップはあるそうです。この時は小銭で払わずお札で払うのがルールで、クレジットカードでチップ分も払うことができるそうです。

最後に、日本になくてアメリカにあるもの…それは国内に時差がある事と、サマータイムを (Daylight Saving Time) が導入されていることです。ちょうど私たちがラボック市で過ごした時はサマータイムタイム中で、日本との時差は 14 時間です。時差に少しでも早く慣れるコツは、飛行機に乗ったらすぐに現地時間に時計を合わせるのだと思います。それでも日中眠たくなることがあり、滞在中は移動のバスの中で寝ていました。ラボック市に到着した時は日本より 14 時間遅れているので、初日は 1 日が少し長く感じました。飛行機で寝ておくとも楽だと思います。



ラボックでの貴重な体験

僕にとって、ラボックでの8日間は、とても楽しく、充実した体験となりました。

僕は今回の事業に参加するまで一度も外国へ行ったことがなかったので、ずっと行きたいと思っていました。だから、交流団への応募用紙を見たときにはとても興奮して、「絶対にアメリカに行つてやる」と誓い、面接を受けました。無事メンバーの一員になれたときにはとても嬉しかったのですが、行けない子が約100人近くいると聞き、武蔵野市の代表としてしっかり行動しようと気を引き締めました。そして実際にアメリカに行くと、不安もあり疲れはしましたが、とても楽しく行動することができました。ここでは、特に心に残っていることや楽しかったイベントについて書きたいと思います。

1. アランヘンリー湖

アランヘンリー湖への訪問は、アメリカでの最初のイベントだったので、皆とても楽しみにしていました。とても大きい湖なのですが、日本と違い周りに建物がないので驚きました。

午前中は足こぎボートに乗って、水をかけあつたり、浮き輪を使って泳いだりしました。昼は眺めのよい「湖の家」に行ってホットドッグやハンバーガーなどを食べ、その後はシャボン玉で遊びました。

僕はここで初めてホストファミリーと出会い、挨拶をしました。

午後には男女に分かれ、男子はポリスボートに乗り湖の中心まで行って泳ぎました。とてもおもしろかったのですが、途中ハプニングがあり、あまり多くの時間は遊べませんでした。



2. イーガート牧場

僕は牛や馬がたくさんいる日本の牧場のようなところを想像していましたが、実際には全然違っていました。もちろん馬などもいますが、プールもあってウォータースライダーもあって、池もあって、無料のかき氷屋さんがあって…と、まるでテーマパークのようでした。プールでバレーボールをしたり、ウォータースライダーではしゃいだりしていました。特に馬に乗ったときは楽しかったです。夕食はバーベキューでホットドッグなどを食べました。

3. ホームステイ

3つ目はもちろんホームステイです。

アメリカの日常生活を体験できたのはとても貴重な経験でした。日本とは何もかもが違い、新しい発見が多い3日間でした。僕と琉玖はショッピングをしたり、公園でテニスをしたり、ホストファミリーのお父さんが働いている郵便局へ行ったり、ジョイランド(遊園地)に行ったりしました。ショッピングでは、日本へのお土産をたくさん買いました。

この8日間は本当に貴重な時間を過ごすことができました。

今回の事業で、僕は実際に行つてみてこそ気づくことが多くあると感じました。この学びを今後に活かしていけるよう努力していきたいと思っています。

引率者の方々や、家族、この事業に関わってくださった全ての人に感謝の気持ちでいっぱいです。

そしてもちろん、交流団のメンバーとして一緒に行動したみんな、ありがとうございます！！



日本とアメリカの文化の違い

「食事」

- ・アメリカの人々は、食べるものを多く用意するものの、食べる量はそれほど多くない。
- ・野菜が非常に少ない。
- ・サイズが大きい。
- ・ケーキやお菓子などの見た目が奇抜なものが多い。
- ・買って来たもの（スーパーの惣菜のようなもの）を食べることが多い。
自分で作って楽しんだりもてなしたりすることではなく、皆と一緒に食べることを大事にしていると感じた。

「移動方法」

- ・とても広く、移動距離が長いので基本的に自動車を利用する。
歩いている人や、自転車に乗っている人を見ることはほとんどなかった。

「生活リズム、スタイル」

- ・日の入りが8時半頃と遅いため、夜は12時頃に寝て、翌朝は9時頃に起きるという「遅寝遅起き」スタイル。午前中よりも、午後から夜にかけてが1日の中心の活動時間だと思った。
- ・キリスト教徒が多く、土日に教会へ行く。

「ルール」

- ・何かをしてもらう（サービスを受ける）ときには必ずチップを払う。
- ・レディーファースト
- ・食事の時、皿を持ち上げて食べない。

「その他」

- ・家の中では土足で生活する。
- ・トイレと風呂が一緒（ユニットバス）
- ・水道水を飲むことができない。

【 まとめ 】

実際にアメリカの日常生活を体験すると、日本とだいぶ異なっている点が多いと感じました。その違いは、地理的特徴や価値観、文化の違いからくるものであると感じました。アメリカの日常生活を直接体験することができて、楽しかったです。



Experiencing American Life in Lubbock

この8日間で私は今までにないとても貴重な体験をすることができました。中一の時からこの事業を知り、アメリカに行きたいと思い、日程が学校行事と重なることが分かりながらも申し込んだ今回。合格したと知った時は嬉しさの一方で、不安もありました。結団式の日、みんな緊張していて空気も重たくあまり馴染めませんでしたが、研修を重ねるにつれ、雰囲気にも慣れ仲良くなりました。

出発式は、ついにアメリカに行けるといって高揚感と、これから日本語が通じないところで1週間過ごすという不安が入り混じっていました。飛行機でも、緊張からか、寒さからか、寝ようとしてもあまり眠れませんでした。長時間のフライトを終え、アメリカに着いたときは、不安は消え期待に満ちていました。

ここからは8日間の中で特に印象深かった3つのプログラムについて紹介します。



1つ目はイーガート牧場です。バスに乗って向かっていたとき、イーガートさんが馬に乗って出迎えてくれました。イーガート牧場では、乗馬、ウォータースライダー、プール、釣りなど様々なイベントを用意してくださって、とてもありがたかったです。特に乗馬は、行く前からとても楽しみにしていたので楽しかったです。また、アランヘンリー湖では現地の子とあまり遊ばず、日本人で固まってしまうことが多かったけど、イーガート牧場では、一緒にプールでバレーボールをしたり、キックベースをしたりして、楽しく遊べたので良かったです。

2つ目は風力博物館です。とても広い敷地で、館外には大きな風力発電の風車があり驚きました。博物館の館長のコイ・ハリスさんが、日本語の名刺をくばりながら温かく出迎えてくれて、嬉しかったです。館内には昔の風車がとてもたくさんあり驚きました。昔のテキサス州の街並みを細かく表現した模型が置いてあり、とても精巧につくられていて凄かったです。また、模型の電車が、機械で時間通りに動くようになっていて面白かったです。他にも、風車の歴史を表した壁一面に描かれた絵を見てとても感激しました。



3つ目はホームステイです。対面式は緊張していましたが、ホストファミリーは明るい人で、すぐに馴染めました。私は人とコミュニケーションを取るのが苦手なので、仲良くなれるか不安でしたが、ホストファミリーは積極的に話しかけてくれて、自然と会話が弾みました。私も日本に帰って後悔はしなくなかったので、慣れない英語でしたが、単語を並べ、ボディランゲージを使ってなるべく沈黙を作らないように話しかけました。そのうち、言葉だけでも伝わるようになっていたり、英語が聞き取れるようになっていたりして、やはり言語はコミュニケーションを取ることで身につけていくものなのだと実感しました。ホームステイはアメリカに行った中で、アメリカ人の普段の生活の中に入り、文化や生活を知る素晴らしい貴重な体験でした。最初は、文化や価値観などの違いに身構え過ぎていましたが、生活を共にしたことで、みんなとフラットに接することができるようになりました。

この一週間での生活は何物にも代えがたい大切な思い出です。武蔵野市ジュニア交流団に参加して本当に良かったです。ラボックでは、文化や価値観の違いにとらわれ過ぎず、コミュニケーションを取る大切さを学んだと同時に、自分のコミュニケーション能力のなさを痛感しました。これからは、身近な友達とももっとコミュニケーションが取れるようになりたいです。

最後になりましたが、このような機会を作ってくくださった武蔵野市とラボックの市議会の方々、いつも私たちのことを支えてくれた引率の方々、ラボックでお世話になったの方々、そして仲良くしてくれた団員のみんなに感謝しています。本当にありがとうございました。



アメリカ人の家事事情と働き方

【このテーマを選んだ理由】

日本では、近年共働き家庭が増えているが、まだまだ女性が家庭に入り専業主婦として家事一切を負担する家庭も少なくない。また、「女性活躍推進法」が進められているが、通勤ラッシュの時間帯の電車を見ても男性ばかりで、あまり効果が望めているとは思わない。女性はフルタイムではなく、パートタイムなどの仕事をして、家事と両立している人が多いのかと思う。そこで、日本は男性の家事負担率が低い、アメリカではどうなのか、アメリカ人の働き方や、家庭での男性と女性の家事分担はどうなっているのか調べてみたいと思った。

【事前に調べておいたこと】

日本は「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業意識が高い国である。したがって、女性は男性よりも家事に従事する時間が長く、夫は家事・育児を妻任せにしている。配偶者がいて18歳未満の子がいる男女が家事にかかる週間平均時間は男性が12.0時間、女性は53.7時間となっている。男性の分担率は18.3%と女性の5分の1程度しかない。一方アメリカでは37.1%と男性の分担率は日本の2倍以上である。よって、アメリカの男性の方が日本の男性と比べて家事を負担している。

(ニューズウィーク日本語版『日本は世界一「夫が家事をしない」国』より：2016年3月1日)

(https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2016/03/post-4607_1.php)

【現地調査】

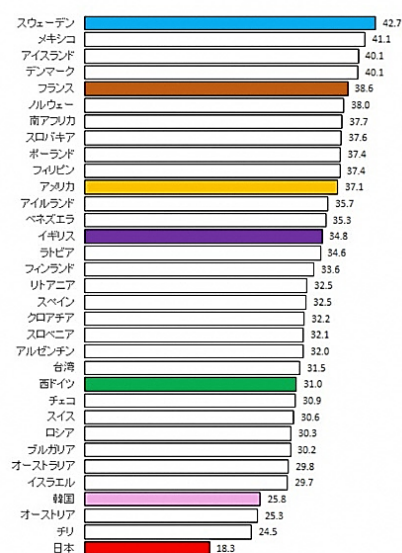
研究テーマに沿って、ホームステイ先の家族間の家事の分担について観察した。

ホストファミリーの家族構成は、お父さん(刑務官)、お母さん(早期教育長)、長女(高校生・17歳)、次女(中学生・14歳)、三女(保育園・5歳)の5人家族だった。お母さんはフルタイムで働いていて、お父さんはパートタイムで働いているようだった。ホストファミリーの家事分担を見ると、朝食はお母さんが作り、昼食と夕食はお父さんとお母さんが分担して作っていた。食器洗いは、紙皿を使用していて、食後は捨てていた。ナイフやフォーク類は、三女を除いて、自分で使ったものを自分で洗っていた。掃除は確認できなかった。洗濯はお母さんがしていた。乾燥機を使って干す手間を省き、時間を省略していた。子育ては、三女の保育園への送迎は、お母さんの職場内に保育園があるのでお母さんが担当していた。三女の習い事(バスケットボール)の試合には、お父さんもお母さんも応援に行っていた。私が家で三女と遊んでいたときは、お母さんよりお父さんの方が、三女の遊び相手をしていた。まとめると、お母さんの方が家事をより多く分担していたけれど、お父さんも食事を作ったり、子どもの世話をしたりなど家事をしっかりこなしていた。また、長女や次女も家事を手伝っていた。

【考察】

日本の共働き家庭では、男性はフルタイムで働き、女性は子どもが小さいうちはパートタイムで働くことが多いがホストファミリーはお母さんがフルタイムで働き、お父さんがパートタイムだった。日本の男性の家事分担率が低い背景の一つには、男性は長時間労働を強いられることが多いためと言われているが、私のホストファミリーはお母さんがフルタイムで働き、お父さんがパートタイムで時間のゆとりのある働き方だったにもかかわらず、お母さんの方が家事を多くこなしていた。これから考えるに、本当は女性と男性の家事分担率の違いは、労働時間の長さによるものではないと思った。ホストファミリーでは、お父さんも家事や子どもの世話をある程度分担しており、日本の男性よりも多く負担していると思われる。しかし、ホストファミリーのお母さんの方が家事を多くこなしていたように、アメリカでも女性の方が家事分担率が高いのは、性別役割分業意識が日本ほど強くはないにせよ、少しあるからではないかと思った。

図1 子持ちの有配偶男性の家事・家族ケア分担率



* 計算式 = 男性の平均時間 / (男性の平均時間 + 女性の平均時間)
 * 18歳未満の子がいる有配偶男女の週間平均時間をもとに計算。
 * 『Family and Changing Gender Roles IV - ISSP 2012』より筆者作成。



僕のおすすめ Best5 ! in ラボック

僕は自宅に合格通知が来た時から、アメリカに行くのを、とても楽しみにしていました。

結団式、事前研修を終え沢山の方の見送りを受けて、成田へ出発しました。

でも、当日浮かれていた自分は財布を忘れてしまいました。落ち込んでいた僕と一緒に参加したメンバーがすぐ心配してくれて 20 ドルずつ借りる事ができ、安心して旅立つ事ができました。みんなには本当に感謝しています。

いざダラス空港に到着すると、まず街の景色を見て、広いというのが第一印象でした。「自分はなんで狭いところにいたのだろう」と思いました。

アメリカで過ごした 8 日間はとても楽しく、日本ではできない経験や体験をすることが沢山出来ました。特に自分の心に残ったエピソードを紹介します。

1 つ目は、アランヘンリー湖です。男子のみんなと一緒にボートに乗り、水鉄砲遊びをしました。昼はハンバーガーを食べ、午後湖で飛び込みなどして遊びました。一時はみんなで心配したアクシデントもありましたが、アメリカの広い湖で泳ぐ体験ができて楽しかったです。



2 つ目は、3 日目の警察学校へ訪問したことです。騎馬隊や特殊部隊、バイク隊のバイクを見てアメリカのワイルドな部分を感じました。特に特殊部隊の SWAT の装甲車は大きく、銃も触らせてもらいましたが、とても重く、僕の持つ手は震えて緊張しました。SWAT の人に「銃を撃ったことはありますか?」と聞くと、「24 年務めているが、現場で実際に撃ったことはまだないよ」と教えてくれたので、ラボックという街がアメリカの中でも安全なのだという事が分かり、安心しました。

3 つ目は、イーガート牧場へ訪問したことです。イーガートご夫妻の家は、牧場の他にプールとウォータースライダーがあり、みんなでプール遊びをしました。セレブになった気分を味わいました。また訪問した記念に手作りの写真立てを作りました。日本では見た事がない、スケールが大きいお宅でしたし、僕達にとっても親切にしてくださったので、感激しました。

4 つ目は、MAIN EVENT (ゲームセンター) でのシューティングゲームがとても楽しかったです。サバイバルゲームのように、レーザー感知できるベストを装着し、1 チーム 10 人ずつ 2 チームで対戦をしました。僕は初体験でしたが、命中率が高く、みんなとチームプレーが上手いき、また体験したいと思いました。

5 つ目は、やはりホームステイです。僕が訪問した家族は 8 人の大家族でした。メキシコ料理が得意なお父さんお母さんと子供は大学生から下は 5 歳の子供がいる明るい家庭でした。家族のみんなは僕がプレゼントした抹茶チョコや駄菓子のうまい棒を喜んで食べてくれて、もっと日本から持っていけばよかったな。と思いました。

ホストファミリーは様々な場所へ連れて行ってくれましたが、僕が一番印象に残ったのは、初めて教会に訪問したことです。ホストファミリーは敬虔なクリスチャンなので、食事前のお祈りを教えてくださり、アメリカ合衆国に対する忠誠心もあるので、教会へ行く事で宗教が生活の中で身近になっているのだと感じました。僕もアメリカで教会に訪問してみたので、日本でも今後気楽に行けるのだと感じる事ができました。

この 8 日間の研修は、日本に住んでいたら感じる事ができないアメリカの空気や雰囲気を感じることができました。TV で見ていたアメリカとは違い、もっと色々な国へ訪問したいと思いました。そのきっかけを与えてくださった今回のラボック訪問は僕の人生にとってとても刺激的な体験でした。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。



現地英語に接して気づいたこと

アメリカに訪問して、テキサス州ラボックの人達と会話したところ、自分が日本で習っていた英語と少し違う事に気づきました。通訳のユカさんに確認したところ、僕が学校で習っているのは、イギリス英語で、ラボックの人達が話している英語は南部アメリカ英語を話しているよと教えてくれました。

南部アメリカ英語とは、アメリカ南部地方の、南北はヴァージニア州・ウェストヴァージニア州・ケンタッキー州からメキシコ湾岸まで、東西は大西洋岸からテキサス州の大部分にかけての地方で話される英語の方言（訛り）という事が分かりました。

僕が実際に会話して、気になったアメリカ南部英語の方言を紹介します。

アメリカ南部英語	イギリス英語	日本語訳
Howdy (ハウディ)	Hello	こんにちは
Y 'all (ヨオール)	You guys	あなた達
Big ol' (ビッグオール)	Big	でかい
Buggy (バギー)	The push-cart	食料雑貨店のカート

僕もホストファミリーに「Howdy！」と言われ、挨拶だとは分かったのですが、調べるまでどのような意味なのかよく分かっていませんでした。

Howdyは元々カウボーイたちの挨拶英語で、テキサス英語を代表する有名な言葉だそうです。ホームステイ先では、トイストーリー4のアニメも見たので、主人公のウディが話していたことに気づきました。

その他、ホストファミリーに教えてもらったのは、Cokeは炭酸系の全般を示しており、お店で注文した場合は、コーラ以外にもファンタかスプライトかドクターペッパーかを聞かれるとの事でした。なので、コーラを注文する際は、Coca Colaと正式名称を伝えるか、Coke-Cokeと2回繰り返してココ・コーラを強調して話した方が良さそうです。因みに、ホストファミリーのお父さんはファストフードでCokeと強く発音して、コーラが出てきたので、発音だけで意味が伝わる部分もあるかと感じました。

南部アメリカ英語は、多くの名詞で最初の音節を強く発音している事が分かりました。なので、予め強く発音しているの、自分が理解できる単語は比較的聞きやすいと感じました。ですが、習っていない訛りがあるアメリカ南部英語は何度も聞き返し、辞書で調べたりして意味を理解しました。

その他日本と違うなと感じたことは、僕がお世話になったホストファミリーは場合によって名前を使い分けているようでした。メキシコネームとアメリカネームを2つ持っている事も教えてくれました。

その中でも
二男はアメリカネームを「ジュアン」メキシコネームは「アンディ」
三男はアメリカネームを「ウィリアム」メキシコネームは「ギエム」といい、
家族の中では、メキシコネームを使っていたので、僕もメキシコネームで呼んでいました。

歴史背景として、元々テキサス州はメキシコの領土だったので、その名残があるそうです。

まとめ：

このように僕達が習っているイギリス英語とアメリカ南部英語の違いは、今まで学校の授業や映画などを見ても気づく事ができなかったの、改めて現地の人との会話で英語に触れて気づく事ができた貴重な体験となりました。また、それに伴い、昔からの歴史背景も色々関係している事も分かりました。

英語は世界の共通語なので、今後も英語を通じて多くの事を学びたいと思いました。



史上最高の1週間

中学3年の夏休み。そのうちの8日間を受験勉強に使うのか、それともラボック市との交流事業に参加するのか。この二択で、私はとても悩みました。結局、圧倒的な好奇心と親の勧めで、ラボック市に行くことが決まりました。

7月23日。いよいよ待ちに待った出発式です。これから始まる8日間を思うと、わくわくしてきました。家族に見送られて市役所を出発し、成田空港へ向かいました。

アメリカまであと少し。楽しい時間はあっという間に過ぎ、ついにダラス空港に到着しました。目の前に広がるすべてのものが新鮮で、改めてアメリカという国のスケールの大きさに圧倒されました。

そして日本出発から約22時間、やっとのことでラボック市国際空港に着きました。まさにこの瞬間から、私たちの1週間が始まります。

中でも印象的なのが、これから挙げる3つの思い出です。

1つ目は、3日目のイーガート牧場。着いた途端、迫力のある馬と3匹の犬が出迎えてくれました。さっそく馬に乗って記念撮影。



私は、馬といっても小さなポニーにしか乗ったことがなかったので、少し怖かったです。しかし、青空と牧場の景色をバックに写した1枚は、一生の思い出になりました。

そして牧場の中に入ると、そこは魅力的なものばかりでした。プール、ウォータースライダーはもちろん、自由に食べられるかき氷や飲み物、工作ができるコーナーもあり胸が躍りました。

まずは、日差しの照りつける青空の下、プールでバレーボールをしました。現地の子供たちも交えて、とても盛り上がり楽しかったです。その後はエクステをつけたり、フォトプレートを作ったりしました。牧場での思い出を、形として残すことができ、良かったです。夕食は野外でのバーベキューでした。BBQと聞くと、日本では肉を焼いたりする光景

を想像しますが、ここではハンバーガーを作ることを指すそうです。人懐っこい犬が寄ってきて、ハンバーガーを狙われそうになりましたが、それがまたかわいかったです。イーガート牧場では、とてもたくさんのお土産やお菓子を頂きました。

2つ目は、4日目のMAIN EVENTです。これは、アミューズメント施設で、今年から初めて日程に組まれた場所だそうです。

ボウリングやゲーム、ゴルフなど目を奪われるものばかりでした。最初に昼食としてピザを食べました。その時、団員だけでかたまっているだけでは意味がないと思い、アディソンという女の子を誘いました。そこで去年、ラボック市から武蔵野市に来たという話を聞き、会話が弾みました。ボウリングなどをする時もアディソンと一緒にしました。ストライクが出た時にはハイタッチをして、とても仲が深まったように感じます。ボウリングの後は、ひたすらゲームをして楽しみました。アディソンとは、日本に帰った今も毎日メールでやり取りするほど大切な親友になりました。



3つ目は、なんとといってもホームステイです。私は、ヴィラヌエバファミリーの家に泊まりました。ピクチャーをはじめ、家族みんなが温かく迎えてくれました。夜には、ショッピングモールに行き、また規模の大きさに驚かされました。駐車場、カート、そのどれもが日本とは比べものになりません。そしてそこで買ったアイスクリームを、



夜中の3時に食べました。それにはさすがに少しためらいを感じながらも、文化の違いを発見できたことがうれしかったです。ホームステイでの約2日間は、本当にあっという間でした。ラボックを離れたくない、という気持ちと同時に、また絶対会いに行こうと強く思いました。

おそらく私は、今までこんなに思い出と発見にあふれた8日間を過ごしたことがありません。今思うと、ラボック市での日々は「人生史上最高の1週間」だったと感じています！

最後に、ここまで貴重な体験をさせていただいたのは、皆様のおかげです。交流事業に関わってくださったすべての方々に、心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

アメリカと日本の衣食住について

ラボック市での滞在中、行く先々に様々な発見がありました。そのすべてが新鮮で、自らの新たな価値観を見つけるきっかけにもなったと思います。だからこそ、広い視野で現地の文化、習慣に触れてみたいです。そこで今回、「衣食住」という3つの視点で日本との違いを比較しました。

【行く前の予想】

衣	食	住
・日本よりカジュアル。	・全体的に分量が多い。	・一階部分が広い。
・服装自体はあまり変わらない。	・季節にこだわった料理が少ない。	・車中心の生活。

【結果】

衣	食	住
・夏は、日本に比べて半ズボン中心。	・メキシコ系の料理もある。	・家族写真がたくさんある。
・同じ中学生でも、とても大人っぽい。	・味が濃い。	・バスルームが大人と子供で分かれている。
・制服がない中学もある。	・一日二食の家もある。	・1人1人に部屋がある。
・小さい子でもピアスをしている。	・ハンバーガーやピザがメイン。	・部屋の中でも靴を履くかが統一されていない。
・どこのスーパーにも洋服が売っている。	・朝と夜中にショッピングモールで買い出し。	・部屋ごとにテレビがある。

◎予想に対して

自分が予想していた以上に、日本との違いが多く驚いた。ホームステイで、一般家庭の習慣を肌で感じる事ができてよかったと思う。また、上に挙げたこと以外にも気づいた点がたくさんあった。例えば、現地の方も水道水を飲むのではなく、ペットボトルを買って水を飲んでた。夜中にアイスクリームを食べたり、量の多い食事を当たり前のように食べているところを見ると、さすがアメリカだなあと思った。

◎まとめ

8日間の滞在を通して、実際に行ってみないとわからないことをたくさん学んだ。また、お互いの文化や習慣を尊重しあうことの大切さに気付いた。印象的なのが、食事の前の挨拶だ。私が日本語で「いただきます」と言っていると、ホストファミリーのMileyが、英語では「Let's eat.」と言う習慣を教えてくれた。食べ物への感謝は世界共通だということに、改めて気づかされた瞬間である。

このようにラボック市で得た発見を生かし、日本の日常を違った角度から見直してみたい。そして今回の経験を、将来の糧にしていきたいと強く思った。



ラボックでの思い出

私は、今まで海外に行ったことがありませんでした。ですから、この交流団に参加できるという選考結果が届いたとき、とても嬉しかったです。ただ、少し不安もありました。例えば、他の団員と仲良くできるか心配でした。しかしその不安は杞憂でした。団員はみんなフレンドリーで、数回の事前研修中、現地で披露するソーラン節とアラジンの「A Whole New World」を歌う練習を一緒にしているうちに、自然と仲良くなりました。

7月23日、いよいよラボックに向かって出発しました。成田空港から飛行機に乗ってダラス空港に着くと、空港の中は広告も通路の案内もすべて英語でした。周りの人もアメリカ人ばかりで、アメリカに来たという実感がわかりました。空港では入国審査に引っ掛かり、審査官と英語で話しました。事前に研修で入国審査のマニュアルをもらっていたのですが、緊張して片言でしか話せませんでした。中学生になり約3年間英語の勉強をしてきましたが、文法を重点的に学んできたので、聞く・話すという勉強をあまりしていませんでした。もっと英会話の勉強をすればよかったと痛感しました。

ラボックでは様々なところへ行きました。市議会、アランヘンリー湖、警察学校、イーガート牧場、そしてクリブスさんの家へホームステイもしました。これらの場所は、個人の旅行では絶対に体験することができない場所ばかりです。僕はこの中でも印象的だったホームステイの時にいったステーキ屋を紹介したいと思います。



このステーキ屋では、最初に飲み物を注文します。この店にはコーラ、ファンタ、ドクターペッパー、Spriteがありました。これらの飲み物は無料で、なくなると店員が継ぎ足しに来てくれます。私はコーラを選びました。

そのあと、頼んだ飲み物を飲みながら料理を選びます。私は8オンスのサーロインステーキを選びました。大体5分くらいすると店員が注文を取りに来ます。その後、白パンとバターが出てきます。この白パンはとてもおいしかったです。(このパンとバターも無料でした)

あとは、注文した料理が運ばれてきて食事をします。さすがステーキの本場だけあって、肉厚でとてもおいしかったです。このステーキ屋では、72オンスのステーキを1時間で食べきったらタダになるというチャレンジがありました。同じようなチャレンジ

を日本でも見たことがあり、考えることはどこも一緒だなと思いました。

滞在中、はじめはあまり英語を聞き取ることができませんでしたが、後半のホームステイで日常的に英語を話す環境に置かれると、だんだん耳が慣れてくるようになりました。ですので、ホームステイも最初はグーグル翻訳を使っていましたが、最後の方は、英語で会話ができるようになりました。

今回の事業では、いろいろな方にお世話になりました。ラボック市の職員の方々、警察、牧場のイーガートさん夫妻、風力博物館の館長、そして、クリブスさん一家。教えあげればきりがありません。私はこの8日間で、これまでの人生にない体験をたくさんしました。今後、お世話になった人に感謝の気持ちを忘れずに、この経験を生かしながら生活していこうと思います。

本当にありがとうございました。

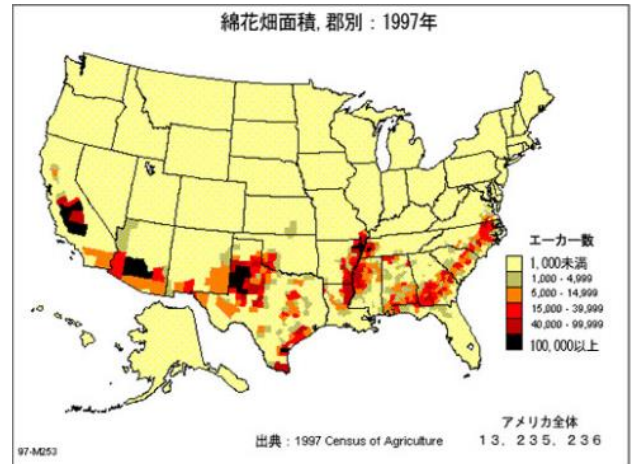


ラボックの綿花栽培について

私はラボックに滞在中、バスの中で見た綿花の畑がとても広く印象的だったのでこのテーマを選びました。

ラボックでは綿花の栽培が盛んだそうです。その理由は、春夏には栄養を与えるためにたくさん雨が降り、秋になると雨が降らない地域が良いとされているからです。つまり、四季があり乾燥地帯であることが条件で、アメリカでその条件に最も当てはまるのはラボックのあるテキサス州とカリフォルニア州だそうです。

このレポートでは、ラボックの綿花栽培の特徴をあげていきたいと思います。



① 効率的に綿花の栽培ができる非常に広大な農地

ラボックの面積は約 298 km²で、武蔵野市の面積（約 10.98 km²）の約 30 倍です。しかし、人口密度はラボックでは約 104 人/km²（武蔵野市は約 1.3 万人/km²）で一人当たりの面積は非常に広いです。ですから、広大な農地を確保し、そこで綿花を栽培することができます。

② 農薬散布用に小型の飛行機を使用

これは、①であげた農地の広さが関係しています。①のように農地の面積が非常に広いと、農薬を散布するためには手作業とするよりも、小型の飛行機を使ったほうが効率が良いです。ホストファミリーのお母さんの実家は綿花の農家で、農薬散布のために小型の飛行機を使っていました。実際に見せてもらいました。小型とはいえ、とても大きかったです。

③ 円形農場（センターピボット農法）で栽培

ラボックでは、半径 400m くらいの円の形をした農地で綿花を栽培しているところがあります。これを円形農場（センターピボット方式）というそうです。この農地は、乾燥地帯にみられる特徴です。丸い農地の中心に 400m の長さのある回転する散水用アームの軸を置いて、中心から伸びるスプリンクラーにより、くみ上げた地下水を作物に撒く仕組みです。私は、この円形農場をダラスからラボックに行く途中の飛行機で見ました。雲の下に謎の緑の円があるのを見て何だろうと不思議に思いました。

まとめ

ラボックで農業をすると、土地が広く平らなため巨大な農地を確保することができますが、乾燥地帯であるため水が自由に使えず作れる作物に制限が出てしまいます。しかし、その制限の中で綿花を栽培し、円形農場をすればといった工夫をしていました。このような工夫を実際に見られてよかったです。



ラボックでの思い出

アメリカに行った1週間はどの日を切り取っても濃厚な思い出ばかりで、人生でこんなに短く感じた1週間はないと断言できるくらい刺激の溢れる毎日でした。

特に私の思い出に残っている事は、市役所の表敬訪問とイーガート牧場です。

市役所の表敬訪問は、ラボックのホテルに着いてからまもなくの出発で、長時間のフライトに疲れを感じている人もいましたが、私はラボックでの初めての行程に、とてもワクワクしていました。市役所につくと多くの方々の温かい拍手に迎えられたり報道陣の方の姿もあり、嬉しさと同時に、改めて「私は武蔵野市ジュニア交流団の一員であるのだ」という自覚を持ちました。女性の議員の方が沢山いて日本より進んでいる制度を目の当たりにした後、市議会が始まりました。市長の話に続いて、事故にあった少年の父親のスピーチを聴きました。全ては聞き取れませんが、聞き取れないからこそ表情や身振り手振りをしっかりと見て、考えながら聞くことが出来ました。また聞き取れるように英語をもっと頑張りたい！という気持ちになりました。市議会は全体を通してアットホームな雰囲気です。笑顔に包まれることもありました。



3日目の行程のイーガート牧場は、名前の通り牛や馬を育てている施設だと思っていましたが、全く異なりました。私の予想を遥かに超える大きさの家や庭、プールなどがあり、テーマパークのようでした。この空間だけで毎日を過ごしてしまうのではと思うほど広く、全てあるご夫婦の土地と聞いたときは本当にびっくりしました。私達はそこで5時間ほど、水遊び、釣り、馬と一緒に撮った写真でオブジェを作ったりしました。オブジェは木の板に写真と一緒にシールなどを貼り飾り付けをするもので私はシールでLUBBOCKを描きました。大きくて帰るのが大変でしたが、自分で作ったためか、とても良い思い出となりました。どれも日本の雰囲気とは違い、私達は時間を忘れたように夢中で遊びました。

この1週間で得られたことは数え切れませんが、その1つに積極性がついたということが挙げられると思います。元々相手の考えていることや感じている事を自分で推し量るいわゆる「付度」をする文化のある日本とは異なり、アメリカでは自分の意見や主張をはっきり明確にする事は聞いたことがあったため、この1週間、特にホームステイでは自分から話そう！と意気込んでいました。最初のうちは緊張していたものの、一緒にホームステイをした子が会った瞬間から積極的に話しかけ、ホストファミリーととても楽しそうに会話をしている様子で、負けず嫌いの私に火がつきそれが「私も話さなくては！」という原動力になりました。また、私は小学校に入学する前は違う市に住んでいたのに加え、小学校からは私立だったため、今回のプログラムは誰一人として知り合いがいませんでした。皆と打ち解けられるか不安でいっぱいだった私でしたが、積極的に話しかけ、逆に話しかけてもらい、素晴らしい友達が出来ました。



このラボックでの思い出は私の人生の中でとても貴重な経験の一つです。将来は世界をまたにかけて活躍したいという私の夢をより強く大きくしてくれました。



最後に、ラボック市の職員や関係者の皆様、ユカさん、武蔵野市の職員の皆様、一緒に最高の思い出を作ってくれた団員の皆、その他私に関係してくれました全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

ラボックで感じたキリスト教

私は、ラボックの宗教の特にキリスト教について調べようと思います。アメリカにいた1週間の中で、度々お祈りをする機会がありました。例えばイーガート牧場、ホームステイ、さよならパーティー。食事の前に1人が代表してお祈りを唱え、他の人は静かに目をつぶりながら聞くというスタイルや皆で唱えるものなど様々でした。また十字架の置物が置いてあるお店を何軒も見かけたことをきっかけに少し興味を持ちました。

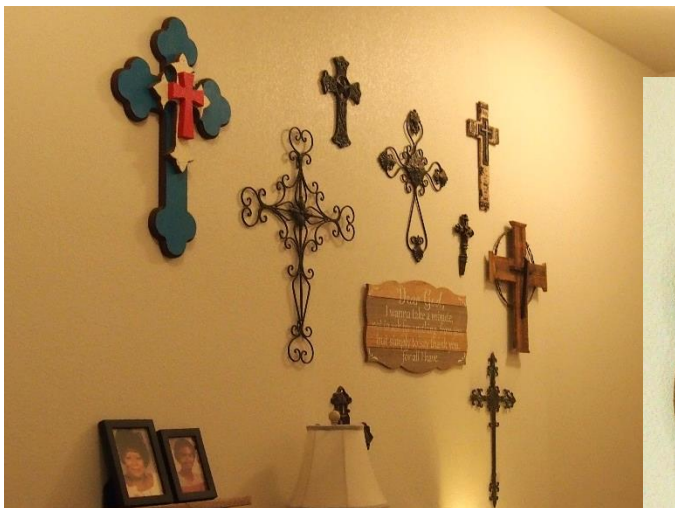
宗教は神聖で私達にとってあまり身近ではなく、あまり触れてほしくない話題と考える人もいる上、私達も時に理解に困難を極める事があります。ですが、ホストマザーに宗教について質問しても良いかと尋ねたら、快く了解してくれましたため、調べようと思いました。ここからはホストマザーに聞いた事を中心的に書いていきます。

ホストマザーによると、キリスト教信者はラボックのおよそ3割(少なくとも2割以上)はいるそうです。結構多いです。お祈りをするのは、朝起きてから、食事の前、寝る前で、朝と寝る前のお祈りは個人で行います。唱えているお祈りは英語で、Thank you, God, for all the things you have blessed us with. With being able to host __ and __ as our family for the weekend. Thank you for our food we are about to receive for the nourishment at our body in Christ say Amen.(__の中には人の名前が入る)です。今ある目の前の食事に対する感謝の気持ちを表すお祈りです。朝や寝る前はまた違ったお祈りがあるのかもしれませんが。私のホームステイ先では、朝ご飯の時はホストファザーはまだ起きていなかったため、長男の Alijah がお祈りを唱えました。家族皆での食事の時はホストファザーがやりました。このことから私は家の中で1番年上のしかも男性がするのかと予想しましたが、どうやら違いました。誰がやっても良いけれども自然と Alijah やホストファザーが多いとのことでした。

私のホストマザーは元々カトリックでしたが15歳の時に自分の意志で別の宗派にかえました。理由はそちらの方が聖書を沢山読み、学ぶ事が多いのではと考えたからです。他の家族の人たちはカトリックのままですが、ホストマザーの決断に対して、曾祖母は同じ神なので気にしないと言ってくれたそうです。

また、キリスト教は特定の食べ物が食べられないという風習がある宗教ではありませんが、心をしずめ、より神に近づくことが出来るように、自主的におよそ14日や100日など自分で設定した期間である特定の食べ物を食べないことも出来ます。実際、ホストマザーは2年前、砂糖の摂取をやめようと決意しました。しかし、4日間程しか続かず失敗してしまったそうです。笑いながら「私には無理だったの」と言っていました。砂糖は甘いスイーツだけでなく、料理や調味料にも入っていることがあるため、相当きつそうです。私は絶対に無理！と思いました。

以上が私が聞いた内容です。私は今までキリスト教などの宗教は歴史も長く義務や求められることが沢山ある、堅苦しく気軽に聞いたり触れるのはタブーなものだと思いこんでいました。しかし、ホストマザーの砂糖の話などのおもしろエピソードを通して、前に感じていた硬い気持ちが少し柔らかくなったように思います。確かに私達に理解出来ないことや価値観の違いに悩まされることはないとは言いきれません。実際、宗教の違いによるすれ違いから発展する争いや戦争もあります。しかし、それを乗り越えるためには実際にコミュニケーションをはかり、お互いがお互いを思いやる心が大切なのだと私は思います。これは宗教に関わらず、日常生活においても言えるでしょう。アメリカに行ったとき、私は沢山の違い、つまりカルチャーショックを受けました。それは例えば、スーパーマーケットの店員がガムを食べながら、レジ打ちをしていたことです。日本ではあり得ず、とても失礼な行為にあたりますが、その店員はとても丁寧に丁寧に対応されていて、一緒に買い物をしてくれたホストマザーもそこまで気にしていないようだったため、アメリカではそこまで普通の光景なのだと感じました。このようなカルチャーショックを受け、私達の住む日本だけが常識ではないと改めて感じ、この気持ちを大切に今回学んだ多くの事をいかしていこうと思いました。



あっという間の8日間

私はこのラボック市で過ごした8日間で特に心に残った思い出が2つあります。

1つ目は、団員との交流です。1日目は、名前も曖昧なほどでした。しかし、2日目のアランヘンリー湖での交流をきっかけにとっても仲良くなることができました。

アランヘンリー湖では、ボートを引っ張ってもらうマリンスポーツを体験しました。2人乗りのボートに無理やり5人乗り、落ちそうになって叫ぶなど、ドキドキする体験を一緒に共有することで、仲良くなることができました。また、3日目に行ったイーガート牧場でも、団員と楽しく交流することができました。そこでは、ウォーターライダーや、バレーボール、キックベースをしました。イーガート牧場での時間は一瞬のように感じるほど、楽しかったです。この8日間で16人ととても仲良くなることができました。今後もこの16人で集まりたいと思います。

2つ目はホームステイです。ホームステイの初日は、とても緊張していました。しかし、ホストファミリーがとても積極的に話しかけてくれたので、安心することができました。さらに、英語をなるべく簡単に、はっきり発音してくれ、私たちが答えやすいように配慮してくれました。また、持参したお土産で、日本に関心を持ってくれたことがうれしかったです。ホームステイの2日目、3日目にはショッピングに連れて行って、アメリカの人気のお菓子や食べ物を紹介してくれました。そこで驚いたのは、アメリカにもお寿司が売っていたことです。日本の「わさび」や「はし」がおいてありました。お寿司は日本のスーパーで売っているよりもすごく値段が高かったです。ホームステイの間、私のホストファミリーは皆、チャコというサンダルを履いていてとてもかわいいな、と思っていました。そのため、「チャコのサンダルを買いたい。」とお願いすると、リサイクルショップへ連れて行ってくださいました。定価よりも安く購入することができ、日本でも愛用しています。途中、体調不良になりましたが、優しく気遣ってくれたホストファミリーとそのペットたちには本当に感謝しています。

アメリカで過ごした8日間は、あっという間に過ぎていきました！本当に楽しく、最高の思い出ができました。このような体験をさせていただいた、ホストファミリーの皆さん、また、準備をくださった、交流事業課の方々、ラボックについてくださった引率のみなさん、そして団員のみんなに、心から感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を生かして、今後も人と人との交流を大切に、行動していきたいと思います。



私が驚いた日本とアメリカの違い

<初めに>

私は、アメリカに行く前は日本とアメリカの流行について調べる予定でしたが、アメリカに行ってみてアメリカの文化や生活に触れ、驚いたことがたくさんあったのでこの研修テーマにしました。

<トイレ>

日本ではウォシュレットがついているトイレが多いが、アメリカで私が行ったトイレには、ウォシュレットがついているトイレはなかった。またアメリカは、トイレの個室の上下、左右の隙間が大きく空いていて、隣の個室が見えるくらいだった。これは、犯罪防止のためと言われており、犯罪が多いことを実感した。



<食べ物>

私がラボックで食べた食べ物は、ハンバーガーや、ステーキなどの肉を使った料理が多かった。また、一つ一つの料理の量が多かった。その他、アメリカは、自分で食べたい食べ物をとるようになっていた。日本でもセルフサービスのところはあがるが、アメリカほど多くはないと感じた。また、飲み物のカップが日本よりも大きく、出された飲み物を飲み終わると、頼まなくてももう一杯おかわりを持ってきてくれた。これはアメリカ人の食べるスピードが速いことが関係していると感じた。

<スーパー>

お店が広く、一つ一つの商品が日本よりも大きく、種類が豊富に揃えられていた。また、日本では、会計をしてから買ったものを開けたり、食べたり飲んだりする。しかし、アメリカでは会計前に、買う予定の商品を食べたり、空けたりすることが可能だった。私のホストファミリーは、レジの前で私たちに商品であるチョコレートを開けて渡してくれたが、食べていいのかわからず、少し困惑した。これは、他のところでも感じたが、日本人のように待つことをあまり好まないアメリカ人の特徴であると感じた。

<家庭>

アメリカでは土足で家に入るのが普通だった。靴のまま家に入るので、すぐ家を出たいときや、忘れ物をした時などに便利だと思った。靴のまま過ごすことが多いが、日本のようにはだしになることもあるようだった。外だけでなく、家の水道の水も飲むことができなかった。そのため、たくさんの飲料水を保管し、外出の際は飲み水を持ち歩いていた。庭付きの平屋の家が多かった。またホストファミリーの家には大きなトランポリンを置いており、とても広かった。また、ペットをたくさん飼っている家が多く、犬は放し飼いだった。それは、アメリカの土地の広さが関係しており、日本では難しいと感じた。

<その他>

アメリカ人は日本人に比べてリアクションが大きかった。お土産を渡した時にはとても喜んでくれてうれしかった。また、アメリカ人（特に大人）はしゃがむことができない。それは洋式のトイレと関係するのではないかと思った。アメリカでは、車の運転が16歳から可能だった。私とあまり年齢が変わらない、ホストファミリーの女の子が運転する車に乗せてもらい、驚いた。また、学校にも化粧やネイルをしていくそうで、日本では禁止されていると言うと驚かれた。

<まとめ>

アメリカと日本では価値観や文化などが大きく異なると思った。初めての外国で体験することがすべて新鮮でアメリカならではの文化に触れることができとても嬉しかった！



出会いに感謝

ジュニア交流団員として、アメリカに滞在した一週間は驚きと挑戦の連続で、あっという間に時間が過ぎてしまった。どの出来事も素晴らしいものだったが、ホームステイ以外の特に心にのこったものを選んで紹介しようと思う。

まず1つめは、アランヘンリー湖での水遊びである、午前はみんなで水をかけ合ったり、脚でこぐボートによって少し遠くに進んでみたりして水遊びを楽しんだ後、ログハウスに戻って昼食をとった。昼食のメニューは、ハンバーガーと炭酸飲料とクッキーとポテトチップスというおやつとごはんが混ざったようなメニューで少し驚いた。午後は浮き輪によってボートに引っ張ってもらったり、湖の奥の深い場所で泳いだりした。この時、ボートと一緒に乗ったり、水をかけ合ったりし、現地の子とも仲良くなれて嬉しかった。久しぶりにこんなにはしゃぐことができたことと幸せな気持ちになった。この日は一日が終わるのが短くなったように感じた。

2つ目は警察学校の見学だ。警察学校に着いてまず驚いたことは、ヒアリがいたことだ。日本にはそう中々いない虫を見ることができたことで、自分がアメリカにいる実感ももてた。警察学校のなかはかなりたくさんの部屋があったが、一番印象に残ったのはトレーニングルームだ、大きなトレーニングマシンや広いマットの部屋や、きついトレーニングメニューが書いてあるホワイトボードなどを見て警察官はこんなに様々な訓練をするのだなと思った。警察学校内を見学し終わるとバイクやパトロール用の馬を見せてもらい、反対用の場所に移ってパトカーや銃の説明を受けた。本物の銃に触れたのは初めてでとても興奮した。しかし扉をこわす道具やヘルメットを強そうな警察官が実際にもって説明していたため少し怖かった。この警察学校でのプログラムで、私はおそらく一番多くの写真を撮った。それだけ、驚きや興奮が多かったということだろう

そして、わたしは、このアメリカ派遣の中で、私は英語に自信がなくても、自分の知っている言葉でコミュニケーションをとろうとすることの大切さを学んだ。それはアランヘンリー湖の交流プログラムやイーガード牧場で現地の子と遊んだ時に、一生懸命話しかけることで友達ができたり、ホストファミリーにも頑張って意思表示をすることでとても親しい仲になったからである。私は中学校に入学するまで英語の勉強をしていなかったため、中学一年生の一学期分の英語しか話せないままアメリカに着いたが、一生懸命、自分の思いを伝えようとして少しでも思いが伝わった時は本当に嬉しかった。

ジュニア交流団に参加し、私は素敵な出会いをたくさんすることができた。ジュニア交流団の団員との出会いもそうだし、ホストファミリーとの出会いやメーガンさんなどの現地の方々との出会いもそうだ。私の部活動の顧問の先生がよく、『出会いに感謝』とおっしゃっていたが、私には言葉の意味が理解できていない部分があった。しかし、私は今回の経験を通してこういう意味なのだなどと、初めて理解できた。私はこんな素敵な経験をさせて頂ける機会に恵まれて本当に良かったと思っている。私を選んで下さった方々、プログラムを考えて下さったラボック市の方々、この事業にたずさわって下さった方々に改めて感謝の気持ちを伝えたい。本当にありがとうございました。



テキサスレンジャーについて

調べた理由

事前研修で「ラボックの豆知識」としてテキサスレンジャーの事を知り、興味を持ったから。

テキサスレンジャーとは？

テキサスレンジャー (The Texas Ranger) は米国テキサス州公安局 (Texas Department of Public Safety) に属する州法執行機関で、ハイウェイパトロールと共に州公安局の中核を担っている。

人材

レンジャーに就任するには8年以上の法執行官としてのキャリアとテキサス公安局における職歴等の資格要件がある。歴史と伝統に基づく誇りを大切に、現在でもレンジャーはブーツ、白のカウボーイハット、ピストルベルトを前任者より引き継ぐ。

歴史

1821年、スティーブン・オースティンはメキシコ領テキサスの入植の許可を得て、まず300家族が移民した。入植地の拡大に伴って、アメリカ先住民族の襲撃に対抗するための自警団が必要になったことから、1823年、オースティンは10人の志願者を募り騎馬による警邏隊を組織した。当時、地域内を巡回する意味の range からの派生語として、騎馬パトロール隊員が ranger と呼ばれていた。

1835年にテキサス革命が勃発すると、暫定政府は3個中隊からなるレンジャー部隊を設置した。これは軍の指揮下で国境警備にあたる騎兵部隊だったが、テキサス共和国成立後、更にはテキサス併合後も存続し、次第に州内全域の一般警察活動も所掌するようになっていた。

20世紀に入ると、モータリゼーションの進展とともに街道上の治安維持が問題になり、全米でハイウェイパトロールの発足が相次いでおり、テキサス州でも1929年に設置されていた。そして1935年に州公安局が設置され、テキサスレンジャーは、ハイウェイパトロールとともにその傘下に入った。

知名度

日本での認知度は、大人は30%、子供は5%だが、アメリカ(ラボック)では大人も子供も知っている様子だった。

まとめ

今回、調べてみて母はテキサスレンジャーの事を知っていたので、もっと知っている人がたくさんいると思っていたが意外とみんな知らないことに驚いた。テキサスレンジャーの方に会うことができたことは貴重な体験になった。調べるだけでなくアメリカに行って分かったことがあったのが良かった。



ラボックでの8日間

習った英語が通じるか試してみたい、世界を見てみたい。そう思って応募した、このジュニア交流団の派遣事業はこの夏の忘れられない思い出になりました。アメリカへ行くのは初めてで、不安もありましたが、それ以上の経験がこの8日間にはありました。

出発当日、飛行機の中ではなるべく寝たほうがいいと言われたのに座席やわくわくする気持ちのせいなのか全く眠れず、その日はとても眠かったです。また、国際線のなかで、映画が見られることやゲームができることも初めての発見でした。

飛行機を降りラボックの大地に足をつき、まず初めに感じたのはアメリカの広さでした。東京のようにビルのような高い建物がなく、青空が近い。東京ではみない風景にとても心を惹かれました。「本当にアメリカに来たんだ」今までの不安は全て吹き飛びました。その日市役所へ表敬訪問に行きました。議会場にはすべての人を包み込む温かさがありました。女性の市議会議員の方がスピーチをされていて、いいスピーチなのに内容が分からなかったのが悔しかったです。その日の夜は「オランドズ」というイタリアンレストランで夕食を食べましたが、料理の大き



さにとっても驚きました。

ハーフサイズで一人前ぐらいの量があり、飲み物もこぼし3個分ぐらいの高さがあり想像以上の大きさでした。やはりアメリカって大きいなと感じました。

ここからは特に印象に残った体験について話します。

1つ目は、2日目に行ったアランヘンリー湖の水遊びです。湖では水鉄砲で遊んだり、モーターボートにつけられた小さなゴムボートに乗せてもらい引っ張ってもらったりしました。岸から近いところでも意外と深く、湖に飛び込んだりしたのが楽しかったです。夕食は「テキサスロードハウス」でステーキを食べました。店内にはピーナッツが小さなバケツの中に入れてあり、それを自由に食べることができます。殻を床に捨てられるというところに驚きました。ここのお店に行った時はぜひ食べてみてください。

2つ目は3日目のイーガード牧場です。バスから降りると女性の方が歓迎の言葉と一緒に赤いバンダナを私の首に巻き付けてくれました。牧場の敷地内は、とても広くナマズ池やプール、ウォータースライダーなどがあり、プールでは地元の子供たちと一緒にバレーボールをしました。言葉は通じなかったけど一緒に遊べて、楽しかったです。また、牧場の方にエクステをしてもらいました。普段ではできない体験でうれしくて、エクステは帰国するまでずっとつけていました。本当はずっとつけていたかったです。また馬にも乗りました。馬の上は不安定なのかなと思っていただけ、鞍があるためか、意外と安定していて馬の背中に乗ってゆらゆら揺れることは意外と気持ちよかったです。

3つ目は4日目の「メインイベント」というアミューズメント施設で遊んだことです。ここにはボウリング場、ビリヤード場、ゲームセンターなど様々な施設があります。ボウリング場は室内が暗く、ライトアップされていて、自分の好きなモードが選べることも日本と違うことのひとつです。現地の Addison という女の子と一緒に6人グループで遊びました。このゲームセンターはカードにお金を入れて、カードのお金を使いゲームをしてポイントをためていきます。そして、ポイントに応じて景品をゲットできます。見たことのないゲームばかりで Addison に教えてもらいながら様々なゲームをしました。特に楽しかったのがホッケーで Addison と対戦して、二人とも本気で戦って、喜んだり、悔しがったり。その後、ボウリングをして、ガーターばかりだったけど、いい思い出です。



そして最後はホームステイです。どのような方々なのか不安もあったけど、Waldmann ファミリーはとても温かく何を話そうか迷っている時も声をかけてくれました。家にプールがあったことにびっくりしました。このプールにはホームステイ2日目に入り、Kaitlin、Trevor と一緒にバレーボールをしました。また、ホームステイ1日目にお土産を渡したときに Kaitlin、Trevor からもブレスレットをもらい、このブレスレットは一生の宝物になりました。スーパーマーケットに行ったり、芝生でバレーボールをしたり、パドルボードをしたり、ボードゲームをしたり、ホストファミリーは本当の家族のように私たちに接してくれました。

習ってきた英語を使ってみるのが今回の事業の私の目標の一つでしたが、なかなか英語で話せなかったかなと思います。現地の人の英語は本当に話すスピードが速く、単語が全て繋がっているような感じでした。聞き取ることがまず難しかったです。でも、私はラボックに行ったことで、世界の広さを見ることができたと思います。広大な大地や人々の考え方の違い、温かさは今回の事業で始めて知ることができました。この8日間を作ってくださった皆様ありがとうございました。

アメリカの食事について

アメリカの食事は日本よりも脂っこく味付けが濃いイメージがあり、どのような食事を普段しているのか、また日本食とどのようなちがいがあるのか気になり、調べることにした。

<アメリカの食事の特徴>

①量が多い

1日目の夕食で食べたパスタはハーフサイズだったが、日本では一人前くらいの量があった。また、ドリンクの量も多くコップのサイズが、日本の2倍ぐらいの大きさで日本ではレストランなどに行くと、水が出されるが、ラボックでは出されない。まず初めにドリンクをたのみ、ドリンクを待っている間にどの料理を食べるか決めるという方式で時間を有効活用している。

②味付けが濃く、脂っこいものが多い

1日目に食べたパスタは、パスタの中にチーズが入っていて上にホワイトソースをかけたものを頼んだ。予想以上にチーズの味が濃く、油の量も多かった。この8日間一番多く食べた料理がハンバーガーで、ハンバーガーは国民的な食べ物だった。ハンバーガーの味も日本と違って、特に肉の味が違っていた。今回はお店で食べるというよりも、みんなが集まるところで提供されることが多く、自分でハンバーガーを作ることが新鮮だった。また、チーズの入っている料理が多いと感じ、チーズソースをチップスにつけて食べるということに驚いた。



③主食の違い

日本では朝、主食としてご飯や食パンを食べるが、ラボックでは「ビスケット」と言われるスコーンのような伝統的な主食がある。その上にクリームやホワイトソースをかけて食べる。基本的に朝はビスケットのようなパンが多く。ホームステイの時はピザや、オムレツを朝食として食べた。そのほかにもシリアルやフルーツなども主食の一つである。

④レストランでの発見

日本ではレストランでセットメニューを頼むと、サイドメニューがつくが、ラボックではそのサイドメニューの量が豊富である。ほとんどの食事がセットメニューで、必ずサイドメニューがついてくる。そのサイドメニューの一つであるサラダの中にあるニンジンが小さな円柱状のスティックになっていることが多く、しっかりとした歯ごたえがあった。もちろんこのサラダの量も多かった。

2日目に訪れたロードステーキハウスでは、ピーナッツが小さなバケツの中にたくさん入っていて、それを待ち時間や食事の最中に食べることができ、殻は床に捨てることができる。日本では食べ終わったものを床に捨てることはなく、これもアメリカらしい文化だと感じた。



⑤その他

- ・アメリカのお菓子は色が派手なものが多い。
- ・飲み物は炭酸がほとんど。
- ・チップスにチーズソースをつけて食べる。

<感想>

アメリカの食事は予想以上に量が多いと感じた。その食事の量の多さも、背の高さなどの体格の違いにも関係してくるのではないかと思った。国が違くと食事のタイプも違くと身をもって感じた。日本料理は味付け薄めで、肉料理、魚料理が基本だが、アメリカは肉料理、卵料理が多かった

今回の体験を生かして、日本にアメリカの人が訪れた時は量や味付けを気にしてもてなしたいと思った。また、もっと世界の料理を食べてみたいと感じた。アメリカの料理もよいが、やはり日本食が一番だと帰国してから感じた。

国を越えた絆

「見るもの、聞くもの、食べるもの、全て吸収して帰って来よう」という、前のめりな気持ちで出発した。もし、誰かが後ろからちょっと押しついたら、前につんのめるのではないかと、思うほど前のめりな気持ちだった。買い物でドルのコインで上手く支払えるか、という軽い不安から、私の勉強している英語は伝わるのか、ホストファミリーに英語が伝わらなかったらどう伝えるのか、交流団の人たちと1週間もうまく過ごせるかなどの重めの不安、そして何よりもずっと楽しみにしていたアメリカでのホームステイへの期待など色々入り混じっていった。

私は、アメリカで過ごした1週間で様々な経験をして学び、そして、たくさんのことを考えた。そのうち、2つを紹介したいと思う。

1つ目は、3日目の警察学校訪問である。まず建物の中を見学した。中には、受付や教室、ロッカー、トレーニング室などがあった。特にトレーニング室について詳しく案内していただいた。トレーニング室のホワイトボードにはその日のハードなスケジュールが書かれていた。屋外では特別に銃を持ってスコープを覗かせていただいたのだが、その重さに大変驚いた。また、ラボック市のパトロールを馬に乗ってするということにも驚いた。日本では絶対に見られない光景だったため、思わず写真を何枚も撮ってしまった。どれを見ても市民を守るという意志が伝わってきてとても感心した。



2つ目は、4日目から6日目のホームステイである。これは家族旅行ではできない体験なので、ラボック市への派遣が決まったその日から首を長くして待ち続けていた大イベントだ。ホームステイではホストファミリーに様々な所へ連れていってもらった。博物館、ショッピングモール、遊園地、遊園地の施設内にはプレーリードッグがいて餌をあげたりした。何より楽しかったのは会話だ。話したことは大体伝わるが、話すまでの文法や単語力の未熟さを感じた。しかし、知っている単語を並べて話をしたり絵を描いたりなどいろいろ工夫することでわかってもらえてコミュニケーションの大切さを実感した。

ホストファミリーの二女 Amaya は私より1歳年上だが背も高くピアスやマニキュア、パーマをしていてとても大人に見えた。日本で考えれば少し複雑な家族構成でも明るくオープンに話をしていった。最初の日にはお父さんの誕生日パーティーが開催されたが、関係のある家族がたくさん集まりみんなで食事をして楽しんでいた。そこには、Amaya の、おばあちゃんやおじさん、おばさんまでいたのである。みんなで今のお父さんの誕生日を祝うなんて、少し驚いた。とても幸せな暮らしを見せていただき心が豊かになった。



少し大人に見える Amaya だが、時間の使い方や興味などは同じだと思った、ジブリのトトロが好きで、ピアノやギターをよく弾いていた。私は学校の校則があるので、まだピアスはしないし、マニキュアやパーマもしないが、おしゃれに興味がないわけではない。アメリカの自由に人生を楽しむ精神がうらやましく感じた。また、5歳の三女 Sophia はまだ小さくスーパーボール遊びとバスケットボール、紫色が大好きな少女だが、お母さんは夕方からの遊園地への外出には Sophia を連れて行かず、行きたいと言ってもお父さんと留守番をさせていた。自由な中でも節度はしっかりと保たれていたと思う。Sophia も Amaya のように明るく優しく自由だけれどしっかりとした女性に成長すると思った。

そして迎えた最終日。ホテルでみんなと「初日のバスが懐かしい！」や「もう一度ホームステイをしたい！」という話題で盛り上がった。みんなの心は「帰りたくない」という思いで一致していた。そのくらいみんなも楽しく充実していた。ホテルを出る直前に Amaya からメールが届いた。そこには心のこもった長い文章が日本語で書いてあった。すぐに私も未熟な英語で文章を返信した。ここから交流が続いていくと思うとワクワクの予感だ。

行きよりも短く感じた帰りの機内では「もう半分も来たね」と周りの人たちと話した。それからバスに乗り交流団のみんなとの別れの時間が近づく。市役所で帰国式をし、「みんなでまた絶対に会おう」と約束した。交流団のみんなとも事前研修やソーラン節の練習などでとても仲良くなった。これからもまた会いたい友人ばかりである。私はこのジュニア交流団を通じてアメリカの友人もできたし、ラボック市の広い街のつくりや大規模農園、自由で節度のある心の豊かな暮らし、食事、人々の考え方など本当に数えきれないほど多くの事を学んだ。この多くの学びは自分の中でずっと刻まれると思うような経験ばかりだった。また、私の普段見ている世界は小さいものだと感じた。今学んでいる目の前のものも大切ではあるが、時にはもっと広い視野で考えを深めることも大切だと思った。

もっと英語の勉強をして実力をつけて Amaya や Sophia、お父さんやお母さんと会話してみたい。いずれ必ずホストファミリーに会いに行きたいと思う。

日本から来た私たちをホームステイとして引き受けてくれたホストファミリーに感謝している。また、協力していただいた全ての人たちに感謝の気持ちで一杯である。



街のつくりについて

<事前に調べたこと>

- ・平屋が多い
- ・日差しが強い
- ・湿度が低い

<行って分かったこと>

- ・道路が広い
ラボック市の道路は道幅が広く、高低差が少なく、真っすぐであった。
- ・田畑が多い
社会の地理の教科書にあった写真とそのままの綿花畑が広がっていた。日本とは違い大規模な円状の畑に圧倒された。
- ・土地の区画が広い
日本よりもとても広いため、土地の使い方がゆったりとしていてゆとりを感じた。
- ・日光対策が多い
1軒1軒の屋根がとても大きく、家の庭には大きな木があつたりと日陰がとても多かった。ラボック市では湿度が低く、日陰に入るととても涼しく過ごしやすかった。

<その他気になっていたこと>

- ・同じ年代の子はどのようなことに興味を持ち、時間を使っているか
1歳年上の Amaya はギターやピアノを演奏することが好きであり、朝からピアノの練習をするなど自分の趣味に時間を使っていた。また、Amaya は背が高く、ピアスやマニキュアをしていてとても大人に見えた。友人と外出する約束をするなど遊ぶために時間を使っていた。日本のジブリ（特にトトロ）に興味を持っており、キャラクターの名前を覚えていたり、グッズを持っていたため、国を越えてそういう話をする事ができた。率直に世界中の人々を深く魅了するジブリは凄いなと思った。



団員アンケート集計

回答数：16名

回答率：100%

1. 武蔵野市ジュニア交流団に参加してどう感じましたか。

- ・大変良かった（16名）

理由

■大変良かった

- ・日本から出て違う価値観をみつけることができ、これから未来に進むためのエネルギーになった。様々な人種がいるがなにか共通のものがあると感じた。
- ・アメリカの子たちと交流をしてアメリカの文化に触れたり体験することができ、世界についてもっと知りたいと思い、通訳者という自分の夢を後押ししてくれたから。
- ・親元を離れ海外に行くことで荷物などを自分で管理し、ドルは難しかったがお金の使い方も学べた。
- ・団員の皆と仲良くなれた。
- ・市議会訪問など、普通の旅行では経験できないことがたくさんできた。実際のホームステイをして現地の人と接することができ、アメリカの文化をより知ることができた。
- ・海外の人と関わったことで日本に縛られず、自分の中の視野が広がったと感じた。
- ・言葉の壁があってもフレンドリーに接してくれてコミュニケーションの素晴らしさに気づけた。
- ・現地の人とたくさんしゃべることにより、自分の英語力を試せた。
- ・英語を日常的に使用するホームステイでは、英語を聞く、話すといった能力を鍛えられ良い経験になった。英語学習へのモチベーションがさらにあがった。
- ・初めてホームステイをしてみて、言葉が通じない難しさを知ることができた。
- ・たくさんの貴重な経験ができたし、団員や現地の方とも親しくなることができ本当に嬉しかった。

2. 事前研修について

(1)役に立った研修内容を教えてください。

- ・英会話
- ・前回団員の話
- ・通貨について
- ・マナー
- ・ソーラン節など出し物練習

理由

- ・学校ではやらない英語がわかった。
- ・ホームステイをしたときに研修で英語を習ったことがとても役に立ち、ホストファミリーとも比較的しっかりとコミュニケーションをとることができた。
- ・英語テキストを紙にしてくれたので、ラボックに持っていきやすかった。
- ・実際いった前回団員の話がとても良かった。持ち物についてなど考えやすかったから。
- ・行った人にしか聞けないことをたくさん聞けたし、より楽しみになった。
- ・アメリカでお金を使うときにスムーズに支払いすることができた。
- ・ソーラン節はアメリカ人にとって見たことがないようだったので、披露できてよかった。
- ・入国審査をするときに迷わずスムーズに手続きをすることができた。
- ・アメリカでのマナーやドルの硬貨の種類など、必要な情報を知ることができたから。

- ・お金の見分けがつかず、大部分は店員やホストマザーに頼りながら買い物を進めたが、自分で払えた時もあり、習った知識を使って払えた時の嬉しさは忘れられない。
- ・発音など学ぶことができた。
- ・アメリカに行く前に団員同士でコミュニケーションをとる良い時間になったから。

(2)回数は ・ 適当である (14名) 少なすぎる (2名)

理由

■ 適当である

- ・学校がある中でちょうど良いくらいの回数に感じた。
- ・これ以上あると試験と重なったり、部活を休む回数が多くなってしまうのでちょうど良い。この回数でも出し物の練習がしっかりできたのは良かった。
- ・何とかダンスやソーラン節や歌などが完成したため。
- ・多すぎると部活との折り合いが大変になり、少なすぎると団員同士の仲が深まらず、適当な回数だったと思います。
- ・本当はもう少しあっても良いが、勉強や部活に問題が起きると思うのでちょうど良いと思う。
- ・出し物の練習も本番で良い仕上がりになったので、適切な練習時間だと思ったから。

■ 少なすぎる

- ・さよならパーティーの出し物の練習時間が少ないと感じたから。
- ・皆の顔と名前が一致しなかった。さよならパーティーの出し物のクオリティーをあげるためにはもう少し回数を増やしてもよかったと思う。

3. 旅行期間、時期について

(1)旅行期間(8日間)は ・ 適当である (9名) ・ 短すぎる (7名)

■ 適当である

- ・ホームシックにならず、また短すぎなくとても適当であると思う。
- ・長すぎず短すぎず、とても良かった。
- ・本当はもっとアメリカにいたかったが、部活や学校の宿題に支障が出てしまう。

■ 短すぎる

- ・もっと色々なところを回ってアメリカの子たちと交流したかった。
- ・8日間はとてもはやく感じたため楽しかったから。
- ・慣れてきたところで帰国になってしまったため。
- ・もう少し期間が長ければ、それぞれのイベントをもっとじっくり楽しめるから。
- ・もう少しラボックにいたかった！
- ・もっとホストファミリーと一緒に過ごしたかったから、一週間だけだと本当に短い。

(2)旅行時期(夏休み序盤)は ・ 適当である (16名)

- ・時期もお盆と重ならず夏休み序盤で、その後の宿題などの計画もたてやすかった。
- ・夏休み後半になると疲れがたまってきたりするから。
- ・7月中に行くと、8月にゆっくり報告書をつくることのできるから。

4. 旅行先でのプログラム、訪問先について

(1) 楽しかったプログラム、訪問先を第1位から3位まで記入してください。

(ホームステイ以外で) (複数回答有)

下記は1～3位の集計

- ・アランヘンリー湖 (16名)・イーガート牧場 (16名)・メインイベント (13名)
- ・警察学校 (3名)・市役所 (1名)・風力博物館 (1名)・病院 (1名) ←②通常プログラム外

理由

■アランヘンリー湖

- ・湖で現地の子と仲良くなれたから。
- ・みんなで遊んでとても仲良くなれた。
- ・最初にアメリカの方と話せたイベントだったから。
- ・団員やラボックの方と仲を深めるきっかけになったから。
- ・ラボックの豊かな自然を感じた。
- ・のびのびと遊ぶことができた。
- ・湖でボートに乗って水鉄砲で遊んでとても楽しかったから。

■イーガート牧場

- ・色々なアクティビティがあって楽しめた。
- ・現地の方が温かく歓迎してくれてたくさんのイベントが用意されていたから。
- ・日本にはない種類の牧場で新鮮だったから。
- ・アメリカの子供たちと一緒に遊んで友達になれたから。
- ・プールでバレーボールをしたりウォータースライダーをしたりして楽しかったから。エクステをつけたのが初めてで嬉しかった。

■メインイベント

- ・現地の子と一緒に遊び色々ゲームができた。
- ・シューティングゲームをしたりボウリングをしたりと、とても面白かった。

■警察学校

- ・生まれて初めて銃をさわったり、SWATの装備を実際に着ることができたから。
- ・実際の銃を見たり、普段は入れない場所に入れたり、とても貴重な経験ができました。

5. ホームステイについて

(1) ホストファミリーとは意思を伝え合うことができましたか。

- ・まったく問題なかった (3名)
- ・わからないこともあったが、概ね意思を通じ合えた (12名)
- ・どうしたらよいかわからず困ることが多かった (1名)

■どのように意思を伝えましたか

- ・身振り手振り、ジェスチャー、絵
- ・知っている単語を並べたり、Google 翻訳を使った
- ・携帯アプリや翻訳ソフトなど
- ・カタコトでも、翻訳機は使わず頑張った
- ・電子辞書

(2)ホームステイ中、どこに行きましたか。また何を一緒にして過ごしましたか。

- ・ショッピング、スーパー、歴史館、市場（アメリカ・メキシコ）、バレーボール、洗車
- ・テキサステック大学、UMC病院、プレーリードッグタウン、ピクニック、スタバ、パドルボード
- ・家でジェンガやけん玉、折り紙
- ・朝市、化石・布の博物館
- ・ショッピングモール、クラフト、スーパーマーケット
- ・テキサス工科大学博物館、ホストファミリーのバスケットボールの試合
- ・家ではゲームをしたり映画をみたりして過ごした
- ・ステーキ屋、スーパー、博物館
- ・リサイクルショップ、バレーボール
- ・プレーリードッグのエサやりや Joy Land、ホストファミリーの子の試合などを見にいったり、かけがえのない時間を過ごすことができた
- ・モールに連れて行ってもらった、ホストファミリーの友達に会えたのがとても良かった
- ・ターゲット、サーティワン、カードゲームや人狼
- ・公園、教会、ホストファザーの働く郵便局
- ・1日目は寿司屋、2日目は PPHM というテキサスの古いものを展示してある博物館とその近くにある溪谷にいった。3日目は科学博物館に行って様々な展示を見学した。

(3)特に楽しかったこと、困ったこと・失敗したことを記入してください。

■楽しかったこと

- ・団員や現地の子と過ごしたこと
- ・家族みんなでスポンジボブを見たこと
- ・みんなと仲良く遊べたこと
- ・ホームステイ
- ・メインイベント
- ・ショッピング
- ・ボウリング
- ・ホストファミリーと会話したこと、Walmart で買い物したこと

■困ったこと・失敗したこと

- ・スーツケースの中にお金を置いていった
- ・帰りの荷物がパンパンになってしまった
- ・荷物の整理
- ・犬がこわかった
- ・お土産の量、Wi-Fi
- ・お金をもっと使えばよかった
- ・お土産が足りなかった
- ・時々英語が通じなかった
- ・体調があまり良くなかったこと
- ・言葉の壁、もっと英語で話せばよかった
- ・風景の写真だけでなく自分が写った写真をたくさん撮ればよかった
- ・英語が早くて聞き取れなかった

(4) アメリカの一般家庭に泊まってみて感じたことを記入してください。

- ・とても大きくてすべてがゆったりしている感じ。土地が広大であるから実現できることだと思うがうらやましい
- ・部屋が広かったり、プールがあったりして、とにかく驚いた。ホストファミリーが明るく笑い声が多かった。
- ・靴のまま入って良いこと、あまり床に座らないことなど、日本とは違う文化だった
- ・実際に体験することでわかることもあり、とても良い経験となった。みんな優しく親しみやすかった
- ・だいたいのことは簡単な英語で話せば伝わる
- ・日本よりも生活の時間帯が遅い
- ・アメリカの方たちはとても優しく、そしてなにより子供のことを愛していると感じた
- ・日本とアメリカでは生活の仕方が違ってとても新鮮だった。一家族の家が大きく感じた
- ・庭が広く家族も明るくフレンドリーですごいと思った
- ・ホストファミリーが歓迎してくださり、楽しくアメリカの日常生活を体験することができた
- ・1つの家に車が3台あったり、トイレ風呂が2つずつあるなどスケールが違うと感じた
- ・家に家事分担表があり家族で協力し合っていることがわかった
- ・朝ごはんは自分で作るスタイルかと思っていたら普通に作ってくれたので人それぞれだと思った

(5) ホームステイはあなたにとって良い経験になりましたか。

- ・はい (16名)

理由

■はい

- ・ともに生活することによってアメリカ人でありながら日本人と変わらないと思うこともあった。ホストファミリーも気持ちを伝えようとしてくださりありがたいと思った。
- ・現地の生活を体験したり、日本と違うラボックの文化を身近に感じられたから。そして家族として迎えてくれて、素敵な思い出となり、なかなかできない体験もできたから。
- ・日本とは違う文化を知ることができた
- ・もっと英語を勉強したいという意欲や、将来したいことがみつかった
- ・もともとの知り合いが少ない中でコミュニケーションをとることの大切さを、身をもって実感した。現地の人と生活することで現地の文化を肌で感じることもできた。
- ・ラボックの生活を、体を使って体験することができたから
- ・なかなか外国の一般家庭の生活を見る機会はないので良い経験になった
- ・ホテルで泊まることではわからない家の構造やコミュニケーションの取り方など多くのことを学べたから
- ・言葉の壁はあっても3日間本当の家族のように過ごせて嬉しかった。海外の人との交流も今回のホームステイでまたやってみたいと思った。

(6) 今後、ホストファミリーとはどのように交流を継続していきたいと思いますか。

- ・メールを送って交流を続けたいと思う。日本に来たら案内したい。
- ・メールや手紙を書いたりしてやりとりしたい。将来、またホストファミリーに会いに行きたい!
- ・日本に来たときは自分の家に招待して来てもらう
- ・メールやインスタグラムで関わりたい
- ・LINEを交換したのでLINEを通して連絡をとりたい
- ・クリスマスの日にはプレゼントと手紙を送る予定
- ・メールでやりとりしたり、遊びに行く、来てもらうなどといった交流をしたい

6. アメリカでどのくらいおこづかいを使いましたか。また何に使いましたか。

使った金額（平均）約1万9千円。（両替した金額 約3万5千円）

■（主な用途）

- ・お土産（お菓子・アクセサリ・リュック・文具など）
- ・お菓子、飲み物、募金
- ・アメリカのお菓子
- ・プレゼント、飲食
- ・ホテルチップ、軽食

7. 出発前と帰国後でアメリカに対するイメージはどのように変化しましたか。

- ・出発前はトランプ大統領のような自己主張の多いアメリカ人が多いのかと思ったが、帰国後は冷静で優しくおおらかなアメリカ人という印象に変化した
- ・こわい国→安全・面白い国 不愛想な国→優しい国
- ・行く前から元気で明るい国というイメージだったのであまり変化はない。ただ自分の意見も大切にしつつ相手の意見も大切にしている面から優しさを感じた
- ・アメリカ人はフレンドリーな人が多いが英語で日常会話ができないとコミュニケーションがとれないのだと思っていたが実際はフレンドリーで気も利くうえ、そんなに英語がペラペラ話せなくても大体のことは伝わるし、理解しようとしてくれるのでアメリカ人はとても優しいと思った
- ・出発前は、ニューヨークのように忙しくて色鮮やかな場所と思っていたけれど、行ってからはのどかで自然が多く、気持ちが良いようなイメージになった
- ・自然が少なく建物がたくさんあるイメージだったが、土地が広いので自然がいっぱいの良いところだと感じた
- ・最初はアメリカの人々は硬い性格で話しづらいイメージであったが、フレンドリーで明るい性格だと思うようになった
- ・アメリカ人全員がファストフードを好きというわけではなかったことが意外だった
- ・とにかく大きいというイメージしかなかったが、ただ大きいだけでなく、それを活かした生活が営まれていることを知った。アメリカ人はとてもフレンドリーで日本人とは違う温かさがあった
- ・周りに山や木が少なく、想像以上に大きい国であると感じた
- ・テキサスはアメリカの中でも3番目くらいに治安が悪い州なので不安でしたが、現地の人々はぼくたちに優しく接してくれたので安心した
- ・アメリカは銃を一般の人が持つことができる怖くて治安の悪い国だと思っていたが、実際にいってみてアメリカにはフレンドリーな人が多く優しい国と思うようになった
- ・ラボックは割と自然が多く、バスの中から一面に広がる綿畑が見えたり、大きな湖があったりと、イメージとは異なった。

8. 今後、ジュニア交流団の経験をどのように活かしていきたいですか。

- ・世界情勢をより意識してニュースをみるようになった。世界規模で物事を考えられる人になれるよう努力したい
- ・アメリカで出会った人たちのように、自分の意見を持ちながらもまわりが見える人になりたい。アメリカの文化にふれ、様々なことを学んで、将来国際的に活躍したい
- ・将来、出張などでアメリカに行くときは今回のホームステイのように現地の住人に積極的に話したい

- ・アメリカのマナーに習い、人との関りを大切にしたり、何事にも感謝する習慣を身につけたい。また、これからの英語学習にも役立てたい
- ・今回、日本にいるときよりも積極的にコミュニケーションをとったつもりだが、それでも会話が続かなかったことが何回かあったので、自分の意見をきちんと言葉にして伝えられるようになりたい。また、今回の経験を糧にもっとたくさんの人と交流したい。
- ・笑顔で自信を持っていくことを学んだので何かの代表を務めるときやみんなの前で話すとき、外国人とコミュニケーションをとるために活かしていきたい
- ・将来英語を使う仕事に就きたいのでそのために中学校からアメリカで学んだ日常で使う英語を活かしたい
- ・アメリカの方が明るく話しかけてくれたおかげで、短期間にも関わらず友達ができた。このような経験から学校でもどこでも明るく笑顔で恥ずかしがらずに話していきたい
- ・自分の意見をしっかりもてるようにしたい。もちろん、英語力の向上にも活かしていきたい
- ・ラボック市の良さをもっとみんなに知ってもらい、逆に武蔵野市そして日本のことをホストファミリーを通じて伝えていきたい
- ・交流団での新鮮な発見や刺激を忘れずに、国外にも視野を向け、様々な情報を集め物事を考えるときの糧にしたい
- ・自分の英語があまり出来ていないので勉強していきたい
- ・今までの英語の勉強では足りないことを自覚したので、今後いっそう勉強していきたい
- ・帰国後、元々内気だった私がキャンプやボランティアに参加するようになり、海外の様子を学んだだけでなく、自分を主張したりやりたいことに積極的にチャレンジしたりと、今まで知らなかった自分に出会うことができた。これからも、何事も失敗を恐れずに挑戦し、世界をまたにかけ活躍できる人になりたい
- ・言葉は通じなくても積極的にコミュニケーションをとる勇気を今回のジュニア交流団で学んだので日本でも積極的に発言したり、様々なことに取り組んでいきたい。もう一度現地の人と会ったときにすらすら話せるようになりたいというモチベーションになった。

9. 今後の参加者へのアドバイスをお願いします。

- ・様々なことを経験させてくれる研修です。一瞬一瞬を大切にしてください。
- ・恥ずかしさを捨てて、できるだけ8日間を楽しんでください！自分からコミュニケーションをとろうとした方が色々楽しめると思います。
- ・ケガをしないように！思いっきり楽しめ！
- ・ホームステイ先や現地の子と仲良くなるより楽しいです！保湿できるものを持っていくべき
- ・英語がそんなに話せなくても単語を並べれば伝わるので、身構えずに積極的にコミュニケーションをとったほうがよい
- ・アメリカ人はやさしく笑顔でいます。なので笑顔で自分たちから積極的に話すことが大切です。
- ・一週間は行く前は長く感じますが、実際いってみると毎日が本当に楽しく、あっという間です！だからたくさん思い出を作って、現地の方や団員のみんなと交流してください。
- ・現地の方はオープンに接してくれてとても楽しい思い出が多くできると思います。自分から話しかけたほうがよいと思います。
- ・自分からたくさん話しかけてください。8日間は長いようで短いです。返事は、はいかいいえで。どっちでもよいなど曖昧な返事はしないほうがよいです
- ・本当にラボック市の方々が温かく歓迎してくださり、向こうでいただくお土産の量がとにかくすごいです。スマホなどで翻訳機能があると少し便利。
- ・体調管理をしっかりと。物を買う時間が少ないので、欲しいものは買ったほうがよい。

- ・行く前にアメリカやラボックの事を調べたほうが良いと思う。また、荷物の管理や事前の準備を怠らないほうが良いと思う。
- ・ホームステイでペアの子と日本語で話してしまいがちですが、勇気を出して英語でアメリカ人に話してみると良いと思います。
- ・風景ばかりでなく、皆で一緒にたくさん写真を撮ってください。英語がわからなくても通訳の方が常に引率してくれるので大丈夫。何事にも積極的にチャレンジを。
- ・日焼けをするので日焼け止めクリームをしっかり塗ること。頭も焼けます。恥ずかしがらずにホストファミリーと積極的に話してみてください。
- ・勇気をもってコミュニケーションをとることやチャレンジすることが大切だと思います。

10. 来年ラボックジュニア大使が来訪する際にホストファミリーをやりたいと思いますか。

(現在のご希望で結構です。)

- ・はい (7名)
- ・わからない (9名)

《保護者意見》

武蔵野市ジュニア交流団派遣事業への参加を通して、帰国後の団員の様子を見て、どう思われましたか。

- ・大変よい (16名)

理由

■大変よい

- ・アメリカでの生活について聞いたのは大分時間が経ってからでした。それでも目に浮かぶように感じられたほど、あちらでの体験はとても大きかったようです。テキサスという広大な自然の中で自分がいかに小さな存在であるか実感したと思います。警察、市議会見学など滅多にできない経験をさせてもらい、ホームステイ先の方々にも「普段通りのアメリカ」を見せていただけ大変感謝しております。異国で、団員同士で助け合って解決できたことも多かった、そのことも良い思い出になっているようです。今後困難なことがあった時には、ラボックの風景や仲間たちとの日々を思い出し乗り切ってほしいです。
- ・市の代表として目的や使命感をもって参加したことは子供たちにとって意義のあるものであり、そして大きな自信へとつながったのではないかと考えています。中学生という多感な時期に、このような貴重な体験ができたことを本当に嬉しく思っています。ジュニア交流団として国際交流の一翼を担ったことを誇りに思い、将来に向かって歩んでいくことができることに深く感謝しております。
- ・ホームステイ先で親切にいただいたようで、好きだった英語を更に熱心に勉強するきっかけをいただいたように思います。通常の海外旅行ではできない経験をたくさんさせていただき、10代前半のこの多感な時期に非常に有意義な事業だと感じました。
- ・アメリカでの貴重な経験や一緒に参加した交流団のお友達との思い出話は帰国してから今日まで1日1回は話題にしています。お揃いで用意していただいた名前入りのTシャツはずっと大切にすると本人も話しています。今回交流団の一人に選ばれ、13歳で体験できたことは本人の自信にもつながると思います。
- ・遊びの海外旅行ではなく、武蔵野市の代表としてアメリカを訪問させていただいた経験は一生の宝になると思います。事前研修では、アメリカの生活やラボック市の歴史、英会話等を学びましたが、仲間と協力して出し物を考えたり、練習したりと、団員としての自覚や仲間との結束が強くなったと思います。出発前にお土産は何をもっていくと喜ばれるかなと、あれこれ考えたのもいい経験です。日本を外国の方に紹介するためのいい勉強になったと思います。ラボックの方々はとても温かく団員を迎え入れてくれて、全ての訪問地で楽しい思い出が作れたようです。ホームステイではペアの団員と一緒にだったので不安が和らいだようで

す。初めてアメリカ人の家庭で過ごした時間はドキドキもしたようですが、ホストファミリーも親切にしてください、英語も身振り手振りで単語を並べたらなんとか通じたようで、やったらできると自信になり、異文化交流の楽しさを実感したようです。ホストファミリーにも色々な背景をもつご家庭があることを知り、多様性を受け入れることにも繋がると期待しています。

- 言葉が通じない中、それでも心と心は感じあえるということを経験したことにより、生きていく自信をもつことができたと思います。海外のニュースに興味を持ち始めたころでしたが、帰国後いずれ海外に留学してみたいと言うようになりました。とても頼もしいです。短い滞在ではありましたが、比較し得る2つの文化を知ることができました。ここから更に見聞を広めてたくさんの視点を持てるようになってほしいです。一緒にいった団員の方々との交流もありがたかったです。ほとんど初対面の人たちの中に入ることは今までないことでしたが皆さん優しくしてくださったようで、より楽しいものにしてくれたと思います。応募の作文、面接、団員との研修、そして渡航。幾つかのステップを超えて今に至りました。貴重な経験を与えてくださり本当にありがとうございました。
- この度は大変お世話になりありがとうございました。日本以外の国を知る大変良い機会になりました。また、数日間一緒に過ごした仲間との思い出は今後の人生の宝になると思います。少し人見知りのある子ですが、ひとまわり大きく自信がついた姿を見ることができました。このように素晴らしい機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。
- ジュニア交流団へ参加したことで、今まで体験したことのないことを経験して様々なことを考えたようです。国は違っても同年代の子の考えていることは同じだということにも気づいたようです。私たち親も知ることができないことをたくさん学んだことにより、考え方の豊かさの種のようなものをまいていただいたように思います。この種を今回だけのものにせず日々の生活の中や、様々な情報に触れることにより、もっともっと成長させていって欲しいと思います。帰国後の生活は部活動の夏の練習は絶対参加だったものをジュニア交流団に参加したこともあり、責任感はより一層大きくなったように思います。その他の練習は時間より早く参加して準備したり、他の部員や先生、講師の先生への配慮についても親子で考えさせられました。なかなか理解されるのは難しいものです。
- このたびは貴重な体験をさせていただきありがとうございました。想像していた以上に自立して少し成長を感じました。語学も本人なりに率先して話せたそうです。今後の勉強に刺激を与え、視野を広げていってほしいと思います。
- 帰国後も現地の友人と交流しているようで貴重な経験になったと思います。今後の高校生活での積極的な国際交流への参加の糸口になると嬉しいです。
- 帰国当日、市役所前でバスから降りてきた息子を見て「あれ、少し大人っぽくなったかな」との印象を持ちました。わずか一週間程度会わなかっただけですが親にそう思わせるほど充実した毎日を過ごしてきたのでしょう。出発当日からラボックでの毎日やホストファミリーとの思い出を嬉しそうに話す息子を見て、参加して本当によかったと心から思いました。十代前半の多感な時期に同世代の仲間と海外に出向き、現地の方々と触れ合う機会はなかなか得られません。本当に貴重で有意義な経験になったと思っています。この事業はぜひ継続していただきたいと思っています。
- 帰国後、アメリカの話を目を輝かせて色々と報告してくれました。とても楽しかったそうです。レポート等改めてまとめている時はホームステイ先の写真を見ながらラボックの事を調べ直して、テーマを決めて黙々とまとめていました。最初は用意から一人ですて初めての外国へきちんと行けるか親も不安でしたが、この機会にまた1歩少しずつ大きく成長できたのではと感じています。物の見方もグローバル視点で引き続き頑張してほしいです。
- 春にこの事業を知り、子どもは志願書について学校の先生に相談したり何度も書き直したりして選考に臨みました。参加が決定したときは大変喜んでいました。

事前の研修では職員の皆様がきめこまやかに指導してくださり、子どもも事業に対して理解を深めていきました。その様子を見て親の私も安心して送り出すことができました。

現地では市役所や警察学校の訪問など行く先々で歓迎され、ホストファミリーの方々も海外に不慣れな子どもが困ることのないよう気を遣ってくださり、ラボックの皆さんの心の温かさを実感できたと思います。

今後はこの経験をもとに広い視野をもち、積極的に行動して行って欲しいと思います。最後に、この素晴らしい事業が今後も継続して実施されることを願っています。本当にありがとうございました。

- ・選考の面接結団式から事前学習、交流中はもちろんですが、事後学習、報告会に至るまで多くの職員の方、市長、そしてラボックの方々、ホストファミリーの皆様にお世話になり感謝の気持ちです。「英語が好きだから行ってみたい」と相談されたときは旅行のように考えていて大丈夫かな…と思いましたが特に事前学習などで色々な話を聞いたり調べたりすることで「団員として頑張ろう」「何かを学んできたい」「ホストファミリーと仲良くなりたい」という言葉が聞かれるようになり、お土産なども相手の喜ぶ顔を思い浮かべながら選ぶなど、初めてのことでした。元々はおとなしく内弁慶な性格だと思うのですが、グループ内で意見を出し合うことやまとめることなど多くを学び、言葉の中に自信がついた様子が見られるようになりました。ホストファミリーの方々も優しく色々な話をしてくださったようで、コミュニケーションの大切さ、英語をもっとコミュニケーションの一つとしてがんばりたいと思えるようになったようです。帰国後、1～2日間は疲れと時差や色々な経験が頭の中でまとまらないのか、ボーっと何かを考えていましたが、その後、堰を切ったように話だし、日ごろの食事や世話についての感謝を言われ「あたりまえじゃなかった」「もっと感謝しないと」などと言っていました。一番変わったところは「積極的になった」「お友達と協力する楽しさを知った」という点だと思います。この夏は武蔵野市でボランティアをしたり、家のことも自ら手伝ってくれたり、少しずつかわる社会の幅を広げていっている感じです。この貴重な体験を無駄にしないためにも今後も社会とかかわり、自分の可能性と、人のためになるかかわりを学んで行って欲しいと思います。